平成 29 年度

事 業 報 告 書

公益財団法人しまね自然と環境財団

島根県立三瓶自然館サヒメル
三 瓶 小 豆 原 埋 没 林 公 園
三 瓶 山 北 の 原 キ ャ ン プ 場
しまねエコライフサポートセンター

は じ め に

平成30年4月9日未明、大田市東部付近を震源とするM6.1、最大震度5強の大きな地震が発生し、大田市を中心に大きな被害が発生しました。三瓶自然館では本館2階の常設展示「三瓶の自然」にある木製の吊り飾りの落下をはじめ展示物の落下、移動や壁のひび割れなどの被害が発生し、当日は被害確認のため臨時休館としましたが、その後は平常開館することができました。また、震源に近く、被害の発生を心配した埋没林公園も大きな被害を受けずに済みました。被災地域の1日も早い復旧を願っております。

さて、公益財団法人しまね自然と環境財団が管理運営している中心的施設の三瓶自然館は国立公園三瓶山をフィールドに、自然に親しむ場の提供とともに展示や普及啓発、資料収集、調査研究などを進め、たくさんの皆さんにご利用いただいています。

平成29年度春期企画展は、身近な生き物でありながらその生態などが意外に知られていないキノコについて紹介する「キノコだれの子？」を開催し、夏期企画展は子供たちに人気のカブトムシやクワガタムシ、農業で利用されている昆虫、サソリ、タランチュラ、ムカデなどの嫌われている虫、さらにはセアカコケグモの生体やヒアリの標本などの展示を中心に「SHIN 昆虫展」を行ったところです。

加えて秋期には、国立科学博物館が実施している地域博物館との連携企画である「巡回ミュージアム」を誘致し、秋期企画展「かはく(国立科学博物館)から恐竜がやってきた！」を開催しました。初めての秋の企画展となり、科博が所蔵する大型恐竜の全身骨格や、恐竜から鳥への進化の過程について詳しく紹介することができました。

このような企画展や野外観察、ドーム映像などを通じて当館に足を運んでいただいた県内外の小中学生を中心とする皆さんには、博物館を楽しみながら自然科学に親しんでいただけたものと思っています

また、三瓶小豆原埋没林公園では、展示中の杉巨木の安定した保存のための表面処理が県により29年度から始まっており、加えて地下水位の安定化に向けたボーリングや保存木の倒伏防止策が行われているところです。また、来園者に埋没林の持つ学術的価値と魅力を十分伝えるために、入館前のガイダンスが実施できるよう施設の充実を引き続き要望しているところです。

一方、財団が大田市からの指定管理者として運営している北の原キャンプ場は、「豊かな自然環境を生かし、自然に親しむ場」となるよう管理運営に心がけ、天候に影響されながらも29年度も引き続き多くの利用者にご利用いただくことができました。

松江事務所を中心に進めている環境保全活動事業では、生活者の立場からの環境保全や地球温暖化防止に向けた諸課題に関心を高めるため、行政や財団主導の活動から地域の環境保全活動を担うボランティアが自主的、主体的に活動できるよう引き続き支援を行ってきているところです。

これからも引き続き、創意工夫しながら博物館の運営に取り組み、博物館としてのスキルアップを図り、皆さんから期待され応援いただける施設･団体となるよう職員一同努めて参ります。

平成30年5月

公益財団法人しまね自然と環境財団

理 事 長　　**廣 澤 卓 嗣**

平成29年度事業報告書 目次

Ⅰ．(公財)しまね自然と環境財団の概要

1　財団の目的 ……1
2　財団の事業 ……1
3　運営方針 ……1
4　財団の管理する施設の概要 ……2
5　組　織 ……4

Ⅱ．島根県立三瓶自然館及び附属施設運営事業(三瓶自然館等運営事業)

1　運営状況 ……6
(1) 三瓶自然館
①常設展示
②企画展
③その他の展示
④ビジュアルドーム
⑤各種イベント
⑥各種行事
⑦新聞への寄稿
⑧自然学講座
⑨天体観察会
⑩自然観察会
⑪環境教育･環境学習事業
⑫博物館ボランティアの活動
(2) 三瓶小豆原埋没林公園
(3) 施設ＰＲ事業
(4) 施設の維持管理

2　調査研究、資料収集･整理事業 ……27
(1) 事業概要
(2) 調査研究
(3) 資料の収集･整理

3　地域との連携、その他の事業 ……32
(1) 地域との連携
(2) 他施設との連携
(3) 行政等への協力
(4) 各種研修の受け入れ

Ⅲ．地球環境の保全に関する活動支援事業(環境保全活動支援事業)

1　事業概要 ……35
2　地球温暖化対策 …… 35
(1) 家庭向け地球温暖化対策
(2) 家庭の省エネ促進支援
(3) 地球温暖化防止活動推進員の支援
(4) 地球温暖化にかかる普及啓発
(5) 市町村事業の支援
(6) 全国地球温暖化防止活動推進センターとの連携

3　県民の３Ｒ推進事業 …… 45

4　環境保全活動支援 …… 45
(1) 情報収集及び情報提供
(2) 地域の多様な主体との協働の推進
(3) スタッフの講師派遣
(4) 環境団体等への協力及び支援
(5) 人材育成(環境アドバイザー)事業
(6) 環境保全活動支援事業

Ⅳ．北の原キャンプ場管理運営事業

1　利用促進業務 …… 50
2　管理体制 …… 51
3　施設維持管理 …… 51
4　利用状況及び収支状況 …… 51
5　自主事業 …… 51
6　その他の事業 …… 52

Ⅴ．施設利用者への利便提供事業

1　物販事業 ……54
2　貸出事業 ……54

Ⅵ．各種資料

1　数値目標を掲げた運営 ……55
2　利用者数の推移 ……59
3　沿革 ……60
4　資料 ……62
5　評議員会･理事会等 ……69
6　関連記事 ……71

Ⅰ.(公財)しまね自然と環境財団の概要

１．財団の目的

公益財団法人しまね自然と環境財団は、島根県内の自然系博物館施設及び自然公園施設等の管理運営を通じ、自然公園の保護と利用の増進に資するとともに、地球環境保全、自然環境の保護及びその他の環境の保全に関する普及啓発事業等を行い、広く県民に対して環境の保全の重要性を訴え、もって島根県の環境の保全及び地域の振興に寄与することを目的とする。

２．財団の事業

(1)自然系博物館施設及び展示施設の管理運営事業
(2)自然保護及び自然環境に関する調査研究、並びに普及啓発事業
(3)環境教育及び環境学習に関する事業
(4)地球環境の保全に関する活動支援事業
(5)自然資源の利用促進等を通した地域振興事業
(6)その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

３．運営方針

当財団は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設(三瓶小豆原埋没林公園)、大田市の施設である北の原キャンプ場の指定管理者として、それぞれ島根県並びに大田市から指定されている。

これらの施設の運営にあたっては、次の6つの基本方針を共有しながら、各施設の特色を発揮させるとともに、法人として「自然に関するシンクタンク」的役割を担い、もって社会に貢献していくことを目指している。

・企画展、観察会や各種イベントを充実し、自然に親しむ場、自然を学ぶ場を提供する。
・学校、大学や研究機関、地域とのつながりを大切にした運営をする。
・調査研究、博物館資料の収集保管に力を入れ、バックボーンがしっかりした博物館を目指す。
・SNSやマスメディアを利用した情報発信、PRを行い、もっと身近な三瓶自然館を目指す。
・心のこもったおもてなしと、不測の事態に備えた点検、訓練を実施し、安心して何度でも利用したくなる施設を目指す。
・入館者及び入館料収入の確保を目指すとともに、経費の節減に努め、安定した経営を目指す。

また、松江事務所を中心に展開する県民への環境保全活動支援では、事務所の愛称を「しまねエコライフサポートセンター(エコサポしまね)」とし、地球温暖化をはじめとする地球環境の課題の啓発を図り、各キャンペーンや環境保全活動への助成を行っている。事業実施にあたっては行政機関や三瓶自然館等の施設との連携を密にして、効率的で効果的な事業展開に努める。

４．財団の管理する施設の概要

(1)島根県立三瓶自然館サヒメル

島根や三瓶の自然、三瓶小豆原埋没林、環日本海地域の自然に関する展示、プラネタリウムや大型ドーム映像を映し出すビジュアルドーム、天体観察施設、博物館資料の収蔵庫、研究室などを備えた自然系博物館であり、三瓶山全体をひとつの野外博物館と考える三瓶フィールドミュージアムの中核としてビジターセンター機能も兼ね備えた施設である。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根1121番8
開設年月日	平成3年10月19日(平成14年4月18日拡充開館)
面　　積	敷地面積　14,822㎡
	建築面積総計　4,442㎡
	建物延べ床面積総計　8,513㎡
施設内容	本館　常設展示(島根県と三瓶の自然)、ビジュアルドーム、受付、売店など
	別館　レクチャールーム、企画展示室
	新館　常設展示(小豆原埋没林、環日本海の自然、フィールドガイド)
	天体観察施設、収蔵庫、研究室、文献図書館など
附属施設	三瓶山ヘルシートレイリングコース(北の原～東の原　片道4.5km)
	北の原フィールドセンター、自然観察入門広場、北の原芝生多目的広場

(2)三瓶小豆原埋没林公園

三瓶小豆原埋没林公園は、約4千年前の三瓶山の噴火で埋もれた埋没林を現地で展示、公開する施設である。

施設は、大小二つの地下展示棟と芝生園地からなる。展示棟では、原位置のままで立ち並ぶ埋没樹を展示している。芝生園地は、発掘調査で確認された埋没林を埋め戻し保存している範囲である。当施設の敷地範囲が天然記念物(国)に指定されており、埋没林の保存管理も施設の役割である。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根ロ58番2	
開設年月日	平成15年5月2日	
面　　積	敷地面積	約10,000㎡
	延面積	
	・管理棟	142.56㎡
	・大展示棟	1,142.59㎡
	・小展示棟	97.09㎡
	(延面積合計)	1,382.24㎡
施設内容	管理棟	受付、売店、事務室、機械室
	大展示棟	展示室、機械室
	小展示棟	展示室

(3) 三瓶山北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場は、国立公園三瓶山の自然の中にある県立キャンプ場として、昭和44年に開場した(平成22年に大田市に移管)。この48年間の利用者は90万人を超え、県民及び県外からの来訪者の憩いの場としての役割を果たしている。

広い敷地内に一般サイト、オートサイト、ケビン、団体向けの集団サイト、キャンプファイヤー場があり、個人客のほか学校団体や企業の職員研修等に利用されている。

また、平成24年度に大田市により、犬と泊まれるバンガローとドッグランが設置されており、愛犬と利用できる環境も整備されている。

所　在　地	島根県大田市三瓶町多根1121番1	
開　設　年	昭和44年	
面　　積	敷地面積	180,891㎡
施設内容	セントラルロッジ	受付、事務室、多目的ホール、売店など
	オートキャンプサイト	73区画
	一般キャンプサイト	フリーサイト(テント200張可)
	ケビン	大型ケビン3棟　小型ケビン10棟
	バンガロー	5棟
	ドッグラン	2区画、休憩所2棟
	その他(シャワー棟、キャンプファイヤー場、炊事棟、トイレ棟　など)	

５．組　織

□評議員･役員名簿

＜評 議 員＞

議　　長	平塚貴彦
評 議 員	齋藤晃大(～H29.6.19)
	鈴垣英晃
	高瀬寿子
	高橋泰子
	宮永龍一
	森脇　幸(H29.6.19～)
	蓮花正晴
	(役毎にアイウエオ順)

＜役　員＞

理 事 長	廣澤卓嗣
常務理事	酒井浩純
理　　事	石田弘行
	末成弘明
	栂　恒雄
監　　事	大谷正幸(～H29.6.19)
	中原良輝
	松村　浩(H29.6.19～)
	(役毎にアイウエオ順)

□三瓶自然館運営委員名簿

委 員 長	島田一嗣
委　　員	秋吉英雄
	今井　靖
	梅田秀樹
	大國晴雄(H29.6.1～)
	皆田修司(～H29.5.31)
	瀬川　涼
	錦織健一郎(H29.6.1～)
	錦織拓郎(H29.6.1～)
委　　員	初見眞知子(～H29.5.31)
	藤井伸治(～H29.5.31)
	藤井好文
	松井律子
	松浦光芳(～H29.5.31)
	松本一郎
	宮﨑康之(～H29.5.31)
	宮本隆正(H29.6.1～)
	山口啓子

□事務局(役員１人、総合職員16人、専門職員10人、一般職員16人、臨時職員15人 計58人)

(平成29年7月1日現在、兼務除く)

常務理事(事務局長・館長) ― 事務局次長・副館長・所長

- 総　務　課 → 管理的業務全般を所掌
  - ・フィールド管理
- 企画情報課 → 広報、営業及び情報発信に係る業務を所掌
  - ・ミュージアムショップ
  - ・三瓶小豆原埋没林公園
  - ・三瓶山北の原キャンプ場
- 学　芸　課 → 地学系及び生物系に係る業務を所掌
  - ・天文事業室
  - ・おもてなし推進室(アテンダントグループ)
- 環境事業課(松江事務所) → 環境保全活動支援及び地球環境問題に係る業務を所掌
  - ・地球温暖化防止活動推進センター
  - ・しまねエコライフサポートセンター

□プロジェクトチーム（平成29年7月1日現在）

重点課題や特定の業務を処理するため、課の枠を超えた職員構成によるプロジェクトチームを設置し対応にあたった。また、平成30年度の夏期企画展は特別企画展のため、本年4月からチームを立ち上げ、入念な準備に取り組んだ。

事務局長・館長
- H29夏期企画展チーム(4名)
- 学校団体利用推進チーム(4名)
- 地域連携推進チーム(4名)
- スペースデザインチーム(3名)
- キッズ＆飲食サービスチーム(4名)
- 常設展示更新検討チーム(3名)
- H30夏期企画展チーム(4名)

□職員名簿（平成29年7月1日現在） 58名(兼務除く。役員1、正職員42、臨時職員15名)

＜統　括＞

事務局長･館長	酒井浩純
副館長	龍善暢
事務局次長	帯刀公平

＜総務課＞10名

課長	石田浩二
企画幹	米浦道子
主事	田原いづみ
〃	山本健太郎
(フィールド管理)	
スタッフ	広岡朗
〃	大谷文子
〃	三輪洋二
〃	大上雅史
〃	小丸政美
〃	古谷利雄

＜企画情報課＞19名　(うち兼務1)

課長(取扱)	帯刀公平
課長代理	中村唯史
企画幹	熊谷正浩
企画員	田中宏明
〃(産休)	竹下瑠美
スタッフ	安原豊子
〃	小原美保子
(小豆原埋没林公園)	
チーフ	大野志津香
スタッフ	石田弓子
〃	中山侑也
〃	福田哲夫
〃	三富洋
(北の原キャンプ場)	
チーフ	桐原信夫
サブチーフ	藤原昌己
〃	岡田桂
スタッフ	西本真理子
〃	山根瞬
〃	太田和良
〃	岩倉敏範

＜学芸課＞23名　(うち兼務2)

課長(取扱)	龍善暢
課長代理	井上雅仁
	(植物)
地質担当(兼務)	中村唯史
	(地質)
企画幹	星野由美子
	(鳥類)
企画幹	皆木宏明
	(昆虫)
研究員	安藤誠也
	(ほ乳類)
研究員	松村美雪
	(植物)
研究員	遠藤大介
	(地質)
学芸スタッフ	三島秀夫
	(昆虫)
〃	松原勝志

(天文事業室)

室長	竹内幹蔵
	(天文)
主任研究員	太田哲朗
	(天文)
主任研究員	矢田猛士
	(天文)

(おもてなし推進室)

室長	大草秀美
ﾁｰﾌ･ｱﾃﾝﾀﾞﾝﾄ	林めぐ美
アテンダント	槇原舞
〃	小田佐由香
〃	和田ひみこ
〃	宮脇成美
〃	大谷朗子
〃	川本愛祈
〃	曽田友子
〃(病休)	細田須美子

＜松江事務所＞6名

(環境事業課)	
所長	池尻隆
課長	葭矢崇司
企画幹	野崎研
企画員	伊藤玲子
〃	門脇恵美
〃	石原香織

網掛け：臨時職員

Ⅱ.三瓶自然館及び附属施設の運営事業

１．運営状況

（１）三瓶自然館

当年度は、平年より多い年4回の企画展（平年は3回）を開催した。春期はキノコ、夏期は昆虫、秋期は恐竜、冬期は自然写真とそれぞれ異なる分野のテーマで開催し、多数の資料類や講座等を通じて広く県民に向けて自然情報を発信した。企画展以外でも、イベント等の事業や調査研究成果の公表を通じて情報発信を行うとともに、学校学習、生涯学習に貢献した。

①常設展示

県立の自然系博物館であり、三瓶山地区のビジターセンターであることをふまえ、本館では、島根県及び三瓶山の自然について、展示パネル、剥製やレプリカ、映像などの展示を行っている。また新館では、三瓶小豆原埋没林標本の実物展示、島根県を中心とした環日本海地域の自然の展示、天文展示のほか、フィールドガイド、こどもはくぶつかんの展示を行っている。

季節に応じての展示物の入れ替え、野外でみられる草花の展示、正月にあわせた戌年展示、来館者からの要望に応じた解説などを行い、展示への興味関心を深めるよう工夫した。

②企画展

ａ 春期企画展「キノコ だれの子？」

多数のキノコの標本やレプリカを展示し、キノコが生態系の中で分解者として大切な役割を果たしていることや、生物としての特徴、生態を紹介した。また、県内における栽培、生活との関わりなどについても紹介し、キノコについて理解を深める機会とした。

期　間：3月11日（土）～5月28日（日）

入場者：23,880人

◆主な展示

□導入：キノコ大集合

様々な種類のキノコのアクリル封入標本を多数並べ、多様なキノコの世界を紹介した。

□しまねの森のキノコたち

島根県内の雑木林やブナ林でみられる代表的なキノコのうち、雑木林のタマゴタケやマツタケ（以上レプリカ）、ブナ林のツキヨタケ、ヤマブシタケ（以上封入標本）などを展示した。また、動物と暮らすキノコとして、ナガエノスギタケ（ジオラマ）などを展示した。

□キノコってどんな生きもの？

キノコの生物学的な特徴、生活、生態系での役割などについて、タマゴタケの成長過程のジオラマや動画、キヌガサタケのレプリカなどを展示し紹介した。

□暮らしの中のキノコ

食用や薬用など様々な場面で利用されているキノコを紹介した。食用のキノコは、よく間違えられる毒キノコとあわせて紹介した。また津和野町の冬虫夏草栽培についても紹介した。

□回廊など

回廊では、本田尚子氏のキノコの水彩画や、押しキノコ作品、キノコを題材とした切手やグッズなどを展示した。

b 夏期企画展「SHIN 昆虫展」

子どもたちに人気のカブトムシ、クワガタムシの生体や標本を多数展示し、その特徴や生態について詳しく紹介した。さらに模様やデザインが親しまれているテントウムシ、農業で利用されている昆虫や嫌われる虫、外来種など人と関わりのある昆虫たちも取り上げ、昆虫への関心や理解を深める契機とした。

期　間：7月15日（土）～9月24日（日）

入場者：54,187人

◆主な展示

□企画展示室

人と関わりの深い昆虫たちを紹介した。日本と世界のカブトムシ、クワガタムシの生体約50匹、標本約600点を展示した。また男女問わず親しまれているテントウムシのコーナーでは標本約20点と桜谷保之氏コレクションであるテントウムシ関連グッズの展示、農業分野で商品化され利用されている昆虫たちを展示した。さらには嫌われる昆虫コーナーを設け、2017年に国内初確認されたヒアリを始め、セアカゴケグモの生体展示など特定外来生物やスズメバチなどを標本やパネルで紹介した。

□新館4階展示室「キッズコーナー」

昆虫関連の工作コーナーとして六角がえし、しおり作り、クワガタムシサンバイザーの工作作成スペースを期間中設け、来館者に好評であった。また昆虫着ぐるみ撮影コーナーでは多くの人が利用し、親子連れを中心に楽しんでいただけるコーナーとなった。

□ホール･回廊など

本館1階ホールには、全長4.7mのヘラクレスオオカブトの大型模型を展示し、入館者の目を引く展示となった。回廊では、橋寛憲氏の昆虫針金模型20点、西田シャトナー氏の昆虫折り紙作品19点を展示し、身近な素材での精巧な作りが来館者の注目を集めた。また、虫が嫌いな人のお悩み相談室、昆虫探検隊の活動報告の掲示や昆虫の見え方体験、昆虫の役割を紹介するコーナーなどいろいろな角度から昆虫を紹介、楽しむコーナーを設け、企画展示室までの導入展示とした。

◆関連イベント

□昆虫探検隊の活動

実施日：7月15日（土）、8月6日（日）

参加者：10名

内　容：企画展開催に合わせ、事前に募集し申込みのあった小学生10名を昆虫探検隊に任命し、北の原での昆虫観察や身の回りで見つけた昆虫を調査用紙で報告する活動を行った。

□デジタル読み聞かせ「カブト三十郎　きみのために生きるの巻」

実施日：7月16日（日）、8月20日（日）、9月17日（日）

場　所：本館2階展示室

参加者：300名

内　容：企画展開催中の「サヒメルきっずサンデー」に合わせて、子どもに人気の絵本「かぶと三十郎シリーズ」をスクリーン投影した読み聞かせイベントを行い、多くの親子連れが参加した。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：7月22日（土）

参加者：43名

内　容：ｐ14参照

□プラスチックスプーンで昆虫標本を作ろう

実施日：7月23日（日）、8月16日（水）
場　所：別館レクチャールーム
参加者：34名
内　容：プラスチックスプーンを加工、色付けして昆虫を作成し、箱に並べてオリジナル昆虫の標本箱を作成するイベント。参加者はチョウやトンボなどさまざまな昆虫をイメージして作成した。2回とも定員を超える申込があり、人気のイベントとなった。

□アロマ de 虫除けスプレーを作ろう

実施日：7月30日（日）
場　所：別館レクチャールーム
講　師：生越知子氏
参加者：37名
内　容：アロマセラピーの講師として生越知子氏を迎え、虫よけ効果のあるアロマオイル作りを行い、虫の好む香り嫌う香りについての話題を紹介した。

□昆虫クイズ王決定戦

実施日：8月20日（日）
場　所：三瓶自然館前広場
参加者：60名
内　容：小学生対象に○×の昆虫クイズ大会を行い、大勢の参加があった。成績優秀者は昆虫クイズ王として表彰した。

□とある未来の給食～あなたも昆虫食にチャレンジ～

実施日：9月10日（日）
場　所：別館レクチャールーム
講　師：内山昭一氏
参加者：19名
内　容：著名な昆虫料理研究家である内山昭一氏を講師に迎え、昆虫食を実際に体験した。参加者全員が昆虫食は初めてだったが満足度は高かった。昆虫食を通じて、多様な角度から昆虫や自然環境を考えるきっかけとなった。

□企画展来館者５万人セレモニー

実施日：9月16日（土）
場　所：本館ホール
内　容：企画展期間中5万人目となる来館者に記念品の贈呈式を行った。

□その他

大型ドーム映像特別番組：「アッテンボロー博士と秘密の博物館～よみがえる恐竜たち～」上映
内　容：ｐ13参照

c　秋期企画展「かはくから恐竜がやってきた！」国立科学博物館･巡回ミュージアム inサヒメル

国立科学博物館

国立科学博物館との共催により、同館が所蔵する、アジア最大級の肉食恐竜″タルボサウルス″や″ニッポノサウルス″の全身復元骨格、始祖鳥や恐竜の羽毛化石などを展示し、恐竜の子育ての様子や鳥類への進化について、最新の研究成果を交えて紹介した。

期　間：10月7日（土）～11月26日（日）
入場者：19,875人

◆主な展示

□ホール･回廊

本館ホールには、全長約6mのニッポノサウルス全身骨格やタッチ化石を配置してアイキャッチとした。また、回廊にモンゴルでの恐竜化石発掘現場の写真やパネルを掲示し、発見された化石がどのように研究や展示に活用されるのか紹介した。

□企画展示室

展示室の中央に全長約10mのタルボサウルス全身骨格を展示し、周囲に小型恐竜や鳥類の標本を展示した。展示したタルボサウルスは最新の研究成果に基づいて復元された世界で唯一の標本で、本企画展に合わせて生体復元画も描き下ろし展示した。恐竜たちの子育てについて紹介するコーナーでは、恐竜の巣の化石や卵の化石のほか、孵化直後の幼体化石と子育て風景の復元画を展示し、親子で楽しめるような空間演出に努めた。最近注目を浴びた恐竜として、羽毛を持つ鳥盤類恐竜クリンダドロメウスを中四国地方で初めて展示したほか、獣脚類恐竜から尾羽竜、始祖鳥、現世鳥類標本へと時代に沿ってて展示することで、恐竜から現世鳥類への進化を一連の現象として紹介した。

□その他の展示など

国立科学博物館開発の「バーチャル･アロサウルス」や、島根県産業技術センターの協力を得て制作したVRアプリ「バーチャル･タルボサウルス」、恐竜の骨格構造を体験で学ぶ「恐竜パズル」などの体験展示を行い、恐竜の生態を直感的に学べる工夫を行った。

また、企画展開催中、大型ドーム映像特別番組「アッテンボロー博士と秘密の博物館～よみがえる恐竜たち～」の上映を行った。

◆関連イベント

□プレイベント･絵本で学ぶせいめいのれきし in 津和野町立図書館

実施日：7月27日(日)
場　所：津和野町立日原小学校、津和野小学校
参加者：28名
内　容：絵本「せいめいのれきし(改訂版)」に登場する絶滅生物の紹介と、津和野町周辺で見られる化石などの解説。

□恐竜3Dぬりえ

実施日：10月8日(土)､29日(日)､11月19日(日)
場　所：体験コーナー(新館4階)
参加者：160名
内　容：絶滅した恐竜たちの皮膚がどんな色だったのかをぬりえで学ぶイベント。ぬりえをした恐竜との記念撮影コーナーも設けた。

□化石のレプリカ作り

実施日：10月14日(土)､15日(日)
場　所：別館レクチャールーム
参加者：67名
内　容：実際の化石から型を取った、本物そっくりのアンモナイト化石のレプリカ作り。

□きょうりゅうはかせの「最新！恐竜学」

実施日：10月21日(土)
場　所：ビジュアルドーム
講　師：真鍋真氏(国立科学博物館)
参加者：125名
内　容：恐竜学の第一人者、真鍋真氏を講師に招いた子ども向けの講演会。

□えほんmeets博物館×「せいめいのれきし(改訂版)」

実施日：10月22日(日)

場　所：新館4階、5階展示室

講　師：真鍋真氏(国立科学博物館)

参加者：18名

内　容：絵本「せいめいのれきし(改訂版)」を片手に展示室を巡る、ツアー型の展示解説。

□世界から見た高見の地質と貝化石

実施日：11月18日(土)

場　所：邑南町高見自治会館ほか

講　師：芳賀拓真氏(国立科学博物館)

参加者：15名

内　容：貝化石の専門家を講師に招いた、県内外のアマチュア研究者向けの地質や貝化石に関する講座。

ｄ 冬期企画展「第３８回ＳＳＰ展　自然を楽しむ科学の眼」

日本自然科学写真協会(SSP)会員による巡回展・第38回SSP展を招致し、出展作から選抜した100点を展示した。三瓶自然館での展示は今回で7回目。昆虫、動物、鳥類、植物などの生物、また山岳や天体など多岐にわたる分野からの科学写真が一堂に会し、年末年始を中心とした来館者の目を楽しませた。

実施日：12月23日(土)～1月28日(日)

入場者：2,530人

③その他の展示

□石見銀山～輝きの源へ～

実施日：4月29日(土)～9月24日(日)

入場者：76,619人(期間中入館者数)

場　所：別館-新館間回廊

内　容：石見銀山遺跡の世界遺産登録10周年にあわせ、鉱山としての地質的特徴と鉱山史的背景を紹介したパネルを展示した。

□石見のあね･デザインワーク展

実施日：7月8日(土)～8月31日(木)

入場者：45,519人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：大田市でデザイナーとして活動し、当館の運営委員でもある松井律子氏の作品展。温泉津夜神楽のポスター等と写真作品を展示した。

□中国四国の国立公園展～アクティブレンジャーが伝える自然と活動～

実施日：9月2日(土)～10月1日(日)

入場者：10,062人(期間中入館者数)

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：環境省中国四国地方環境事務所が主催。中国･四国地方の国立公園で活動する環境省のアクティブレンジャーが撮影した自然景観や自然保護活動風景の写真約30点を展示した。

□三瓶自然館インタープリター写真展

期　間：12月23日（土）～1月28日（日）

入場者：4,502人（期間中入館者数）

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：三瓶自然館のボランティアスタッフ「三瓶自然館インタープリター」による写真展。植物、鳥、天体など自然を題材にした作品を23点展示した。

□しまねの農村景観フォトコンテスト写真展

実施日：3月10日（土）～4月8日（日）

入場者：4,002人（期間中入館者数）

場　所：本館1階ギャラリー

内　容：島根県農村整備課の主催で、「第20回しまねの農村景観フォトコンテスト」の入賞作品約40点を展示した。この写真展は、県内数カ所で巡回して行われており、当館では2回目の開催。

④ビジュアルドーム

a プラネタリウムの投影

◆プラネタリウム一般投影

プラネタリウム生解説投影（星座案内）と、オリジナルで制作したプログラム番組（テーマ番組）を通年で投影した。

□星座案内

実施日：通年

観覧者：11,636人

内　容：その日見られる星空から、月や惑星、星座などを紹介し、話題となっている天文現象の話などを織り交ぜて、解説員による親しみやすい生解説投影を行った。1回約20分。土曜日には45分の拡大投影実施。月ごとのテーマを設定し、話題を変えながら天文担当の研究員が深く掘り下げた解説を行った。

□テーマ番組

＊氷の火山～太陽系の活火山～

実施日：4月1日（土）～平成30年3月31日（土）

観覧者：8,054人

内　容：太陽系の衛星に見つかった氷火山（アイスボルケーノ）をテーマに、発見の経緯やその存在から予測される地球外生命の可能性について最新の研究成果をもとに紹介した。語りは声優の堀江由衣氏。（平成28年度制作）

＊秘密結社 鷹の爪 THE PLANETARIUM～ブラブラ！ブラックホールのナゾ～

実施日：4月1日（土）～7月14日（金）、9月30日（土）～10月6日（金）、11月27日（月）～平成30年3月31日（土）

観覧者：1,757人

内　容：人気アニメ「秘密結社　鷹の爪」のキャラクターを使った番組。島根県出身の登場人物「吉田くん」を用いて島根を取り上げつつ、多くの人が興味を持つブラックホールを科学的な主題として、最新の宇宙論をおもしろく、わかりやすく伝えた。

＊星と銀のふしぎなつながり～もうひとつの石見銀山物語～

実施日：7月1日（土）～7月14日（金）

観覧者：157人

内　容：石見銀山の鉱山としての歴史的な背景に加え、宇宙での元素合成や太陽系の形成など、銀と宇宙の関係を織り交ぜながら紹介する番組（平成17年度制作）。語りは俳優の萩原聖人氏。石見銀山世界遺産登録10周年を記念して、現状の機器にあわせデジタル化したものを投影した。

＊一番星の女神～金星の謎に迫る～

期　間：平成30年3月10日（土）～3月31日（土）

観覧者：318人

内　容：地球と同じような大きさを持ちながらその環境が大きく異なる金星の謎を最新研究結果をもとに紹介する番組（平成26年度制作）。平成30年春から秋にかけて金星が宵の明星として見えることから、その紹介として投影を行った。

＊その他、オリジナルライブラリ作品を投影

期　間：随時

観覧者：116人

□その他

＊きっずプラネタリウム

期　間：毎月の第3日曜日

観覧者：1,249人

内　容：毎月第3日曜日に実施している「サヒメルきっずサンデー」関連イベントとして、幼児向けのプラネタリウムを投影した。星空に親しむきっかけ作りを目的として、月や星のこと、星座の物語などを中心に、親子一緒になって楽しめる内容とした。

＊字幕付きプラネタリウム「月を見上げて」

実施日：9月15日（金）～9月21日（木）、12月3日（日）、9日（土）

観覧者：312人

内　容：聞こえに不安がある人や、聴覚障がいを持つ人を主対象に、プラネタリウム番組に字幕を付けて解説する番組を投影した。馴染みの深い天体である月をテーマに、星空への親しみを深めてもらう内容とした。

◆プラネタリウム学習投影

実施数：32回

観覧者：1,374人

学習指導要領に沿った内容として「小学4年生向け投影」、「小学6年生向け投影」、「中学生向け投影」、及び保育園や幼稚園等の未就学児を対象に星空に親しむきっかけ作りを目的とした「幼児向け投影」を、学校団体の希望にあわせて投影した。

小学4年生向け投影	9回	292名
小学6年生向け投影	3回	67名
中学校向け投影	2回	23名
幼児向け投影	15回	921名
その他（小学5年生向け投影）	3回	71名

b 大型ドーム映像の上映

平成28年春に更新した全天周デジタルプロジェクターシステムにより、オリジナル番組及び特別番組の上映を行った。

◆特別番組

□「アッテンボロー博士と秘密の博物館～よみがえる恐竜たち～」

実施日：7月15日（土）～9月24日（日）、10月7日（土）～11月26日（日）

観覧者：18,397人

内　容：夏期、秋期企画展期間に上映した。内容は、ロンドン自然史博物館に展示されている恐竜や絶滅動物が甦るもので、最新の研究成果をもとに精密に再現されたCGが注目を集めた。

◆一般番組

□「さんべ自然紀行」「三瓶冬紀行」「煌めきのなかで」「島根　人と自然の原風景」

実施日：さんべ自然紀行（4月1日～9月24日、平成30年3月10日～3月31日）
島根　人と自然の原風景（9月30日～10月6日、11月27日～平成30年3月31日）
三瓶冬紀行（9月30日～平成30年3月4日）
煌めきのなかで（4月1日～7月14日）

観覧者：4,010人

内　容：三瓶自然館のオリジナル番組。四季折々の三瓶山の表情と、そこに息づく生き物たちを追った「さんべ自然紀行」と「三瓶冬紀行」、島根県各地の自然と人との関わりを描いた「煌めきのなかで」と「島根　人と自然の原風景」の4作品を上映した。

⑤各種イベント

□春の男三瓶山に登ろう

実施日：5月7日（日）

参加者：33人

内　容：森林内に咲く春の草花や鳥のさえずりを観察しながら、男三瓶山への登山を行った。参加者は、インタープリターによる解説を聞きながら登山を楽しむことで、自然への興味や関心を深めた様子であった。

□初夏のノルディックウォーク

実施日：5月28日（日）

参加者：11人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続く新緑のヘルシートレイリングコース往復を歩き、途中、研究員による草花などのミニ観察会を行った。三瓶ヘルスツーリズムとの共催事業として、講師の派遣を受けた。

□バードウオッチング講座

実施日：6月4日（日）

参加者：22名

内　容：身近な野鳥基本10種類の鳴き声を聞き分けることを目標として、実際に野外で鳥の声に耳を傾けた。鳴き声を聞き取りやすいよう4～5名の班分けを行い、各班にインタープリターを配置して充実度を高くした。班によっては、ハルゼミやキアシドクガなど身近な昆虫観察なども楽しんだ。

□夏の夜の昆虫観察

実施日：7月22日(土)

参加者：43人

内　容：夜の三瓶山で見られる昆虫の観察会。夜の森を歩いて虫を探したり、ライトトラップやエサで虫を集め、アブラゼミの羽化や樹液に集まるクワガタムシの仲間などさまざまな昆虫を観察した。

□初秋の室ノ内を歩こう

実施日：9月10日(日)

参加者：28人

内　容：秋の草花や風景を観察しながら、室ノ内を東の原から西の原へと散策した。参加者は、インタープリターから室ノ内の風景や秋の草花の解説を聞きながら歩くことで、三瓶山の自然に興味を深めた様子であった。

□ススキの迷路

実施日：10月7日(土)～11月5日(日)

内　容：秋の北の原に繁茂するススキを利用した迷路コース。本年度では、難易度別に初級、上級の2コースを整備し、平日では幼稚園や保育園の遠足等、休日は家族連れの利用を得ることができた。

□さんべ祭

実施日：10月14日(土)～15日(日)

参加者：1,896人

内　容：レクチャールームにおいて、インタープリターによる工作を行ったほか、北の原キャンプ場では「グランピング体験」を行い、新しいキャンプスタイルの提案を行った。

□天体望遠鏡講習会①

実施日：10月29日(日)

参加者：7人

内　容：天体望遠鏡を使って天体を撮影するための講習会。望遠鏡の使い方の説明を受けた後、天体撮影を実践した。雲間から月やアンドロメダ銀河などを撮影した。

□秋のノルディックウォーク

実施日：11月3日(金･祝)

参加者：9人

内　容：2本のポールを使うノルディックウォークで、北の原から東の原まで続くヘルシートレイリングコース往復9kmを紅葉を楽しみながら歩いた。道中で研究員が草花などの説明を行ったり、観光リフトで太平山に上がり、最盛期の紅葉の観賞とあわせて、三瓶火山についての解説を行った。

□オーロラ上映会

実施日：11月12日(日)

参加者：144人

内　容：地球環境への関心や保全意識の高まりを目的に、オーロラメッセンジャー･中垣哲也氏によるオーロラとアラスカの自然映像の上映と講演を行った。

□全国一斉 熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月23日（木）

参加者：57人

内　容：勤労感謝の日に、全国34館で一斉に開催した。心地よい音楽とプラネタリウムの満天の星で、熟睡してしまうほどリラックスできる時間を演出した。今年は星空解説等は入れず、星空をただ眺めていただくゆったりとした時間を提供した。また、例年同様いびき席を用意したり、ドーム入口では、香りでもリラックスしてもらおうとアロマディフューザーも設置するなどの工夫を行った。

□熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月26日（日）、12月毎週日曜日（計5回）

参加者：77人

内　容：全国一斉熟睡プラ寝たリウムと同内容のものを、当館独自で実施した。

□お正月イベント

実施日：1月2日（火）～3日（水）

参加者：1,745人

内　容：入館無料で実施し、多くの参加者で賑わった。郷土色豊かな島根県4地域の雑煮のふるまい、書き初め、ビンゴ大会、干支の戌に関する特別展示などを実施した。また、プラネタリウムでは戌の星座にまつわる星空案内を行った。

□歩くスキーでアニマルトラッキング

実施日：2月4日（日）

参加者：26人

内　容：雪が積もった北の原周辺を歩くスキーを使って散策し、哺乳類や鳥類の足跡や糞、植物の冬芽などを観察した。参加者は5～6名の班に分かれて活動し、各班の指導には当館インタープリターが当たった。

□北の原ファンタジー「さんべ魔法学校～ドタバタ体験入学～」

実施日：2月18日（日）

参加者：153人（11:00）、168人（14:00）合計321人（ドームイベント入場者）

内　容：アテンダントによる手作りの劇と、ゲームで楽しむビジュアルドームイベント。今回は「さんべ魔法学校」を舞台とし、三瓶に生きる動物や埋没林について学んでもらうことを目的とした。また、きっずサンデーと同日開催でテンピータイムやデジタル紙芝居のほか、ダンボール迷路、ミニライブなどを実施した。

□プラネタリウム「星空とともに」

実施日：平成30年3月10日（土）、11日（日）

観覧者：63名

内　容：東日本大震災の被災者から寄せられた星と震災にまつわるエピソードをもとに、2012年仙台市天文台が製作したプラネタリウム番組。震災の日に合わせ、各地のプラネタリウム館で投影された。当館でも毎年投影している。本年度は11日の投影前に「まい＆れいれいミニコンサート」も実施した。

□天体望遠鏡講習会②

実施日：3月25日（日）

参加者：18人

内　容：天体望遠鏡を使って天体を撮影するための講習会。望遠鏡の使い方の説明を受けた後、天体撮影を実践した。月やオリオン大星雲などを撮影した。

□親子で作ろう工作教室

実施日：5/3（水）　ミニこいのぼり作り　(20人)
5/4（木）　魚をつろう　(29人)
5/5（金）　竹の工作　(18人)
8/5（土）　フォトスタンド作り　(20人)
8/6（日）　海藻のしおり作り　(26人)
8/19(土)　フィンガーペイント　(25人)
12/10(日)　クリスマスリース作り(14人)　( )内は参加人数。

内　容：自然や環境をテーマにした親子向けの工作で、企画と実施をインタープリターが担当した。

□サヒメル科学探険隊

実施日：5/14(日)、6/11(日)、9/24(日)、10/22(日)、11/5(日)

参加者：22名

内　容：小学4～6年生を対象に自然科学に関する体験活動や観察を計５回実施。島根県と広島県の小学生の参加があり、館内外でのさまざまな活動を通して子どもたち同士の交流や積極的に取り組む姿が見られ、自然科学への関心を高め理科好きな子供たちを繋ぐ有意義な活動となった。

第1回　サヒメル探険と三瓶山の自然観察
第2回　風と風力発電との関係を探ろう
第3回　火力発電の仕組みを学ぼう
第4回　自然界の放射線を調べてみよう
第5回　お札の特徴を観察しよう、活動発表会

□サヒメルきっずサンデー

実施日：毎月第3日曜日

参加者：5,104名

内　容：「しまね家庭の日」に連動した、幼児に三瓶自然館を楽しんでもらうための一日。「デジタルかみしばい」、「きっずプラネタリウム」、「テンピー・タイム」、「いきものはともだち(水槽展示の紹介)」、「天文ミニガイド」を実施した。「デジタルかみしばい」では、新しい企画として絵本の「デジタル読み聞かせ」や「埋没林かみしばい」を行った。また、館内スタンプラリーを設置し、バナーやガーランドで館内を飾り付けた。

⑥各種行事

□科学の祭典2017科学の縁結び祭りへの参加

実施日：7月29日(土)、30日(日)

会　場：出雲科学館(出雲市今市町1900-2)

参加者：281人

内　容：夏期企画展タイトルロゴ入りのクワガタムシのサンバイザー作りを実施した。また、昆虫のアクリル封入標本やアブラゼミの大型模型を展示し、夏期企画展のPRをした。そのほかにも島根大学の学生と連携してプラスチックねんど「おゆまる」を使った、アンモナイト化石のレプリカを作製した。

⑦新聞への寄稿

読売新聞「サヒメル研究日誌」(計12回)、島根日日新聞「学芸員日記」(計23回)、山陰中央新報「さんいんきらめく星」等(計26回)への原稿執筆を通して、三瓶や島根の自然の紹介、自然保護についての啓発、情報発信を行った。(掲載記事の一覧は「Ⅵ.各種資料 4. 資料(p62～)」参照)

⑧自然学講座

□バードウオッチング講座

詳細はｐ13に掲載

□オーロラ上映会

詳細はｐ14に掲載

□教員のための博物館の日

実施日：アクアス会場：8月 8日(火)
　　サヒメル会場：8月18日(金)
参加者：アクアス会場：16人
　　サヒメル会場：24人
内　容：国立科学博物館と共催で開催。学校の博物館利用を促進することが目的で、教員に博物館の様々な展示やプログラムを紹介する事業。今年度は、三瓶自然館と島根県立しまね海洋館の2カ所で実施した。ワークショップでは島根県立しまね海洋館と島根県立宍道湖自然館が実施している学校向けプログラムの実演や学校の備品の望遠鏡を活用する実習なども行った。

【アクアス会場】

ワークショップ		講　　師
1	アクアスでの学校向けプログラム紹介 「生きものの誕生」	山口慶子ほか2名 (しまね海洋館アクアス 学習交流係)
2	天体望遠鏡を使ってみよう	当館職員
3	身の回りにある天然放射能を利用した放射線学習	〃
4	バックヤードツアー ＆館内見学用ワークシート作りと意見交換	山口慶子ほか4名 (しまね海洋館アクアス 学習交流係)
ポスター発表による事例紹介 ◎貸出教材アクリル封入昆虫標本　実践レポート ◎ｻﾋﾒﾙの標本やｱｸｱｽの生きものを使った授業実践 ◎池田ラジウム鉱泉を利用した課題研究 ◎飯南町の温泉水を利用した放射線授業実践		和田正利(大田市教育委員会) 土肥静枝(美郷町立大和中学校) 島根県立大田校等学校理数科生徒 (指導教諭：下垣章裕) 当館職員

【サヒメル会場】

ワークショップ		講　　師
1	アクアスでの学校向けプログラム紹介 「生きものの誕生」	山口慶子ほか2名 (しまね海洋館アクアス 学習交流係)
2	ゴビウスでの学校向けプログラム紹介 「ボトルアクアリウム作り」	中野浩史(宍道湖自然館ゴビウス)
3	天体望遠鏡を使ってみよう	当館職員
4	企画展＆バックヤードツアー	山口慶子ほか2名 (しまね海洋館アクアス 学習交流係)
ポスター発表による事例紹介 ◎貸出教材アクリル封入昆虫標本　実践レポート ◎ｻﾋﾒﾙの標本やｱｸｱｽの生きものを使った授業実践 ◎池田ラジウム鉱泉を利用した課題研究 ◎飯南町の温泉水を利用した放射線授業実践		和田正利(大田市教育委員会) 土肥静枝(美郷町立大和中学校) 島根県立大田校等学校理数科生徒 (指導教諭：下垣章裕) 当館職員

※本事業は第12回科学教育の普及・啓発助成事業の支援を受けて実施した。

⑨天体観察会

20cmクーデ式屈折望遠鏡4基と60cm大型反射望遠鏡を活用し、定期･予約観察会のほか、天文現象などにあわせた様々なテーマの観察会を実施した。

合計参加者数：7,098人

a 定期天体観察会

実施日：毎週土曜日(1回45分)

開始時刻：(4～8月)20:00～、21:00～、(9、10、11、3月)19:00～、20:00～、(12～2月)19:00～

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加人数	176	278	128	322	653	416	47	143	28	192	164	101	2,648

b 予約天体観察会

学校団体･一般団体を対象にした天体観察会で、土曜日と休館を除く日に予約により実施している。曇天･雨天時にはプラネタリウムの投影を行う。予約団体の多くは、国立三瓶青少年交流の家において宿泊研修を行う学校団体であった。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4.資料(p64)」参照)

実施数：66団体　3,802人

c 特別天体観察会

□ゴールデンウィーク天体観察会

実施日：5月3日(水)、4日(木)、5日(金)

参加者：417人

内　容：月や木星、二重星などを望遠鏡で観察し、星空を紹介した。

□大田市民のための天体観察会

実施日：6月4日(日)

参加者：10人

内　容：大田市民を無料招待する天体観察会を実施し、月や木星などを観察した。

□夏休み天体観察会

実施日：8月11日(金)、13日(日)、14日(月)

参加者：196人

内　容：惑星(木星、土星)や星雲、星団などの天体を観察し、夏の星空を案内した。

□天文教室「天体望遠鏡講習会」

実施日：10月29日(日)、3月25日(日)

参加者：25人

内　容：参加者のカメラを望遠鏡に接続して撮影する方法を解説し、実際に月や星雲、星団などを撮影した。

⑩自然観察会

a 定期自然観察会「北の原お散歩ツアー」

実施日：毎週土曜日(4～11月)

内　容：三瓶北の原草原で見頃をむかえた季節の花や景色を楽しみながら行う自然観察会。来館者が気軽に参加できるよう30分間で実施 。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
参加人数	51(5)	12(4)	27(4)	21(5)	33(4)	32(5)	14(4)	30(4)	220(35)

(　)内は回数　※悪天候時は中止

b 予約自然観察会

事前の予約に応じて行う自然観察会、学校団体等を中心に好評を得ている。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4.資料(p65)」参照)

実施数：41団体　1,145人

⑪環境教育・環境学習事業

□館内案内・テーマ解説

館内案内はアテンダントにより随時実施しているほか、研究員によるテーマ解説(館内展示や特定分野に関する専門的解説)を、予約を受けて実施した。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4.資料(p66)」参照)

実施数：16団体　369人(テーマ解説)

□講師派遣

各種団体や学校、生涯学習施設などの要請に対して、各専門分野の職員が赴き、自然や環境についての講演や観察会を行うなど、環境教育や環境学習に協力した。(実施状況は「Ⅵ 各種資料 4.資料(p67～)」参照)

実施数：61団体　2,218人

□スーパーサイエンスハイスクール・サイエンスセミナーなどへの協力

＊島根県立益田高等学校スーパーサイエンスハイスクール地域巡検

日　時：7月13日(木)

生徒数：1年生 31人

内　容：天文……天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察
　　放射線……身近にもある放射線の調査と観察

＊島根県立大田高等学校１年生　三瓶サイエンスセミナー

日　時：9月13日(水)、14日(木)

生徒数：1年生 37人

内　容：研修①……天体望遠鏡のしくみと太陽黒点の観察
　　研修②……身近にもある放射線の調査と観察
　　研修③……スケッチによるヒトとその他の哺乳類との骨格の比較
　　研修④……ダンゴムシの行動を探る

□教員のための博物館の日

詳細はｐ17に掲載

⑫博物館ボランティアの活動

□博物館ボランティア「三瓶自然館インタープリター」について

三瓶自然館インタープリターは、三瓶を訪れる人たちが、生きた自然に触れ、自然の不思議さや素晴らしさを感じ、自然を愛する心や守る心を育むことを手助けすること(インタープリテーション)を行うために設置されたボランティアスタッフである。

館の設置目的を理解し、自然環境の保全に関心を持つ希望者のうち、研修を修了した者に委嘱登録している。また、自然観察の経験等の少ない希望者には、研修を積んだ後に委嘱している。

□登録者数

登録種別	人　数
委嘱登録者	60人
登録希望者	7人
合　　計	67人

男女構成	人　数
男　性	46人
女　性	21人
合　計	67人

□活動実績

館が実施する各種事業に協力し、主に参加者や来館者に対する解説や案内を行っている。主な活動内容は次のとおり。

・館主催イベントにおける参加者対応や企画、実施、実施補助
・外部から依頼を受けた自然観察会や定期観察会での自然解説
・団体向け予約天体観察会や毎週土曜日の定期天体観察会での補助や案内
・新館4Fのハンズオンコーナーでの工作や来館者対応
・北の原の植物･鳥類調査(環境省のモニタリングサイト1000など)

登録者のうち40人が何らかの事業に参加しており、延べ529人の協力を得た。

□平成29年度の主な協力事業

月　日	事　業　名	活動人数
5/ 7	春の男三瓶山に登ろう	12人
5/20～5/21	ビギナーズキャンプセミナー	5人
6/ 4	バードウオッチング講座	8人
6/18	ダッチオーブンセミナー	2人
7/22	夏の夜の昆虫観察	11人
9/10	初秋の室ノ内を歩こう	12人
9/30～10/ 1	ビギナーズキャンプセミナー	6人
10/14～10/15	さんべ祭	13人
2/ 4	歩くスキーでアニマルトラッキング	8人
複数回実施事業等	工作コーナー	73人
	親子で作ろう工作教室	11人
	北の原お散歩ツアー	6人
	自然観察会	33人
	天体観察会	126人
	調査	91人
	研修･保全作業	49人
	会議･打ち合わせ等	63人

※複数日に渡るイベントと複数回実施事業等の活動人数は延べ数

□研修

解説についての研修、「国立公園満喫プロジェクト」に関する研修のほか、インタープリターによる自主研修会を行った。また、現地研修として岡山県を訪問し、自然保護センターの植物やブッポウソウ繁殖地などを視察するとともに、関係者と情報交換を行った。

（２）三瓶小豆原埋没林公園

今年度は、埋没林の保存対策事業が本格的に始まり、島根県から受託を受けた保存処理業務と普及啓発業務を実施したほか、展示棟内での井戸設置等の工事に対応しながらの運営になった。展示公開では、スタッフによる解説の充実を図りながら、来館者満足度の向上に努めた。

①常設展示

大小2棟の地下展示室において、三瓶小豆原埋没林を発掘状態で現地展示している。大展示棟(縄文の森発掘保存展示棟)では、スギ3本、広葉樹4本の立木のほか、流木群を展示している。観覧者は地表下約12mの見学デッキから見学できる。小展示棟は、三瓶自然館展示標本の根株があり、地下約13.5mの床面で間近で見学できる。

②展示解説

実施数：134グループ　3,308人

内　容：予約時に解説希望の有無を確認し、予約団体の大部分に解説を実施した。また、予約に限らず、スタッフの対応が可能な限り解説を行うことで埋没林の魅力を伝えることに務めた。その他、団体以外への解説も随時実施している。

③イベント

□限定エリアガイド

実施日：毎週日曜日に実施。

参加者：各回5～10人

内　容：通常非公開の展示棟床面で解説を行うガイドツアー。床面から見る埋没樹は見学デッキよりさらに迫力があることから、参加者の満足度は高い。展示棟内の工事が始まった2月以降は床面へは立ち入らずにガイドを行った。

□蛍カフェ

実施日：6月24日(土)

参加者：26名

内　容：株式会社necco(山の駅さんべ運営者)との共催で、ホタルの観賞会を行った。18時過ぎから山の駅さんべで食事をとり、空が暗くなった20時前頃から小豆原川に沿って飛ぶホタルを観賞した。

□エキ･カラ

「エキ･カラ」は、三瓶青少年交流の家が地域と共同で実施する三瓶地域協育ネットワーク事業として3回実施した。各回とも大田市内の駅を起点にして、近隣の自然史的な景観などを見学した。

＊馬路エキ･カラ

実施日：7月17日(月)

参加者：10名

内　容：馬路エキ･カラは、馬路駅を出発し、琴ヶ浜海岸と鞆ヶ浦を巡る約5kmを歩いた。

＊久手エキ･カラ

実施日：9月3日(日)

参加者：18名

内　容：久手駅を出発し、久手の町なみと波根西の珪化木、掛戸、波根湖干拓地を巡る約7kmを歩いた。地区内の住民も参加したことで、その土地ならではの話題を提供してもらうことができた。

＊静間エキ･カラ

実施日：9月18日(月)

参加者：14名

内　容：静間駅を出発し、「鬼村の鬼岩」と鬼村鉱山跡までの往復約8kmを歩いた。鬼村下自治会の協力を得て、鬼岩の頂上に登ったり、鬼村鉱山跡のトロッコ軌道などを見ることができ、参加者の関心が高かった。

④啓発事業

□出前授業

実施日：大田市立久手小学校　　10月11日(水)
　　大田市立北三瓶中学校　11月16日(木)

内　容：受託業務とは別に独自事業として実施。埋没林と火山をテーマに授業を行った。久手小学校は「波根西の珪化木」に重点を置き、北三瓶中学校は埋没林の現地学習もあわせて実施した。

□平成29年度三瓶小豆原埋没林普及啓発業務

実施日：8月26日(土)～1月31日(火)

内　容：島根県が実施する埋没林保存検討業務の一部として、普及啓発にかかる業務を受託して、下記の項目を実施した。

＊ガイダンス

実施日：9月16日(土)～10月6日(金)

内　容：展示室内の奥側(小展示棟側)の階段下で、A2サイズのパネルを用いながら、スタッフが15分程度のガイダンスを行った。あわせて、アンケート調査を実施し、198件の回答を得た。ガイダンスについては大変好評で、今後も必要という意見が大部分を占めた。

＊幼保育園向け出張ガイダンス

実施日：大田市立久手幼稚園　11月 6日(月)
　　大田市立大田保育園　11月22日(水)
　　大田市立鳥井保育園　11月27日(月)
　　大田市立久手保育園　11月29日(水)

内　容：埋没林の発見と保存をテーマにした紙芝居を作成し、大田市内の幼保育園で上演した。あわせて輪切り標本に触れる体験を行ったことで、埋没林への興味を喚起できたと思われる。

⑤埋没木の保存検討に関する事項、保存処理、モニタリング、調査等

週1回の地下水観測と月1回の水質調査を継続して実施したほか、保存処理方法の検討を目的とした三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務を島根県から受託して実施した。

また、第8回保存検討委員会(島根県自然環境課主催)が11月8日に開催され、これに出席した。

□平成29年度三瓶小豆原埋没林埋没木保存処理業務

実施日：7月28日(金)～3月10日(土)

内　容：本業務では、展示棟内の2本の倒木を対象に、トレハロース溶液の塗布6ヶ月と充填率の測定等を実施した。処理の結果は良好で、樹幹表面の脆弱部の硬化と一定量の含浸が確認された。

（３）施設ＰＲ事業

①広報営業活動

広告掲出やチラシ類の配布は、夏期企画展を中心に集客期を重点的に行った。当年度は秋期企画展を加えて企画展が4回行われたことから、小学生向けの招待券を夏秋兼用にして、効率的に集客を図る工夫を行った。

広告掲載は、夏期企画展の共催広告企画を、山陰中央新報社と中国新聞社の2社で実施し、両紙とも複数回の広告掲載や記事掲載によって島根県と広島県からの集客を図った。同時に、テレビCMも山陰両県と広島県で放送した。

外部で実施されるイベント会場でのPRでは、「石見肉祭り（江津市）」や「ゆめタウン出雲（出雲市）」等にブースを出展した。また、「島根ふるさとフェア」では大田市観光協会に帯同してPRを行った。

地域連携で実施するものとして、三瓶山広域ツーリズム振興協議会の三瓶フェア（モンベル岡山店、モンベル広島紙屋町店）に参加して三瓶山地域のPRを行った。

□営業活動

大田市観光協会との連携を密に行い、同協会が市外のエージェントを対象に営業活動を行う機会に、当館の施設利用を誘客プランの一部として発信される形が実現した。また、同協会の山陽方面への営業活動にも同行するなど、大田市エリアとして誘客する体制になっている。

埋没林公園では、冬期を中心に県内の観光関連施設への訪問PRを実施した。

②情報発信

□ＷＥＢサイト･ＳＮＳ

各施設のホームページに施設の基本情報とイベント等の情報を掲載し、臨時的な情報などはSNSを併用することで情報発信を行った。ホームページへのアクセス数の傾向として、5月の連休頃をピークとして、年度後半に向けて減少する傾向がある。平均すると1日130件程度で、前年よりやや減少している。

□ケーブルテレビ(ぎんざんテレビ)

地元ケーブルテレビ局とタイアップして、情報番組「さんべ発！サヒメルnavi」を毎月制作し、三瓶山や島根の自然情報と三瓶自然館のイベント情報を提供した。放送開始から9年目となり、島根県内の視聴世帯数は16万世帯を超え、PRと情報発信の有力な手段になっている。また、大田市内においては、音声告知を活用したイベント告知も継続して実施した。

＊平成29年度「さんべ発！サヒメルnavi」放送内容

放送日	放　送　内　容	放送日	放　送　内　容
4/14 4/22	生きものの暦（生物季節観測）	10/13	天文事業室紹介
		10/27	秋の企画展紹介
5/16 5/22	姫逃池のカキツバタ紹介	11/10 11/24	三瓶の紅葉と学芸員紹介
	春の星空紹介		秋の企画展「かはくから恐竜がやって来た！」
	夏の企画展「SHIN 昆虫展」Part1		
6/ 9 6/23	三瓶でキャンプ！	12/ 8 12/22	冬期企画展第38回SSP展
	ホタルを知ろう		埋没林紙芝居ふしぎな森のものがたり
	夏の企画展「SHIN 昆虫展」Part2		キャンプ場の冬の楽しむ方

7/14 7/28	夏の星空紹介	1/12 1/26	歩くスキーでアニマルトラッキング
	ミナミアカヒレタビラの紹介		冬の星空紹介
	夏の企画展「SHIN昆虫展」Part3		北の原ファンタジー2018
8/11 8/25	SHIN昆虫展　2階展示室	2/ 9 2/23	回廊で見つけた小さな春
	SHIN昆虫展　体験コーナー		マグマが作った宝石
	SHIN昆虫展　関連イベント		春の企画展「火山のチカラ」
9/ 8 9/22	SHIN昆虫展「ヒアリ」の紹介	3/ 9 3/23	日本活火山総覧の見方
	秋の企画展紹介		
	秋の三瓶山		

□ミュージアムニュース発行

三瓶自然館のイベントや島根の自然に関する情報、環境事業部門の活動情報を取り上げ、隔月で年6回、3,000部ずつ発行した。年間パスポート会員、学校、図書館、県内市町村等に配布した。

（4）施設の維持管理

平成27年度から平成34年度までの指定管理施設・設備の維持管理は、「島根県立三瓶自然館及びその附属施設の管理運営に関する仕様書・協定書（以下「仕様等」）」を遵守し、現指定管理申請時（平成26年10月）に策定した平成27年度から平成34年度までの管理運営業務の基本方針に基づき、各年度当初に事業計画を定め、業務にあたることとしている。

【指定管理期間での管理業務基本方針】

・管理者の都合ではなく利用者のための管理
・県民の財産をお預かりしている意識
・自然環境や地球環境に優しい管理

平成29年度は、年度計画の重点事項のひとつであった"行政が推進する整備関連事業への協力"に終始した。前年から持ち越しとなった標本室空調故障、バイオマス空調燃料（木質ペレット）の供給不調の課題については、それぞれ設備更新、新規供給先の確保により、年度当初において復旧した。以後も、島根県による県有施設長寿命化推進事業に伴う設備更新が図られ、館内照明の一部LED化、消防設備・屋外映像設備等の更新、本館・新館接続路（通称「モグラの道」）などの整備が進められた。これらの整備にあたっては、指定管理者として設備の情報提供、要望・提案等を行ったほか、県と施工業者との間で調整し、利用者や施設運営への影響を最小限に留めるよう尽力した。また、国・県が進める国立公園満喫プロジェクトにより三瓶山周辺の公衆トイレ整備が実施され、北の原多目的広場トイレも整備対象となったため、工事管理に協力した。このほか、次年度以降での整備案件や、平成32年度に三瓶山北の原で開催されることとなった全国植樹祭、大田市が行う森林整備計画等の調整など、行政の補完業務と並行しながら、日常的な施設設備の維持管理も適切に行った。

①各管理にあたっての特記事項

a　設備・備品類の管理

管理業務基本方針に基づき、専門業者による定期的なメンテナンスのみならず、職員による日常的な点検を実施し、トラブルが発生する前での早期発見、早期対応に努めている。

施設に付随する設備･備品類についても、適切な維持･運用を図ったほか、設備台帳システムによる設備情報のデータベース化を進めた。

設備トラブルは、県や専門業者と密接に連携を取りながら対応し、軽微なものは迅速に復旧したが、標本収蔵庫空調機配管の漏水等の大規模な事項については、応急処置に留まった(ただし平成30年度において復旧予定)。

また、行政が推進する整備関連事業について、財団として設備の情報提供、要望、提案等の協力を行い、本年度は三瓶自然館標本収蔵庫空調機、消防設備や屋外通路等が更新されたが、複数の工事が並行したことや工事トラブルから通常業務への負担、影響もあった。

b 野外環境の管理

管理域(三瓶山北の原～東の原)において全3回の刈り払い作業を実施したほか、三瓶山登山道(姫逃コース、名号コース)の定期的な点検、風倒木等の処理作業を行い、来館者･来園者、登山者の快適な利用に資するよう環境管理を行った。

なお、これらの作業にあたっては、自然公園法の指定植物、レッドデータブックに掲載される稀少植物の取り扱いに細心の注意を払っている。

29年度から大田市による、北の原周辺のマツ林改良作業が始まった。数年かけて北の原一帯の松林改良(雑木林への復元)を図るものだが、安全かつ円滑に作業が実施されるよう、管理情報の提供などで協力した。財団として国立公園選定時の三瓶山北の原の復元を目指し、引き続き協力していく。

②管理コスト状況

管理に係るコストは、光熱水費が増加となったが、それ以外の項目は前年並みとなり、総額として対前年比104%だった。本年の光熱水費の増加は、収蔵庫空調機更新による再稼働のためだが、空調機が稼働していた一昨年と比較すると大きな差はなかった。

設備保守費では、県から収蔵庫空調機更新後の収蔵庫内燻蒸業務･埋没林保存処理等の業務を指定管理業務とは別に受託し、実施したが、昨年並みとなった。これは、委託業務内容の見直しによるコスト削減の成果が出ている。しかし、昨年に引き続き委託業務に係る物価や業者人件費は上昇傾向にあり、予算枠が長期にわたって固定されている指定管理者制度のなかで、委託相手との難しい交渉を続けている。平成30年度は、指定管理仕様の見直し実施年であり、このこともしっかりと県に訴えかけていきたい。

その他経常事務費は、引き続き縮減に努めており、昨年に比べて10%の減少となった。

◆管理コスト状況(自然館及び小豆原埋没林公園の合計、単位：千円)

項　　目	平成28年度 決算額(A)	平成29年度 決算予定(B)	対前年比 (B/A)*100
光熱水費	16,741	20,710	123.7%
設備保守費(外注委託)	62,623	63,192	100.9%
経常事務費	11,482	10,544	91.8%
合　　計	90,846	94,446	104.0%

※ただし県から別途受注した標本室燻蒸、埋没林保存処理等の業務処理を含める。

③保安･危機管理

当施設における危機管理は、火災や設備故障などのハード的な障害から、犯罪や人身事故などの人的なもの、さらにスズメバチなどの危険生物や豪雨、倒木、積雪等による自然的なものなど、多様な状況が想定されるが、当財団では「来館者･来園者の安全確保」を第一優先事項とし、危機事態の防止･回避、発生した場合の対応にあたっている。

平成29年度では、重大な事故等は発生しなかったが、その他保安･予防対策として次のような活動を行った。

・繁忙日での道路渋滞、駐車場渋滞に対し、警備員配置による公道整理のほか、職員による駐車場内の安全誘導。同様に、館内の誘導による混雑緩和。
・倒木、土砂崩れ、ハチ営巣等、登山道や自然歩道に関する情報発信のほか、関係機関への対応要望。
・滑りやすい箇所での滑り止め設置や立ち入りの制限。冬季凍結箇所への融雪剤散布。
・積雪時、開館時間前まででの除雪。屋根下など落雪エリアの封鎖、危険周知。

なお、平成28年度から危機管理マニュアルの見直し、作業マニュアルの作成を進めていたが、危機管理に関する設備類(消防設備等)の更新が行われ、今後も施設整備が施される見通しのため、29年度では喫緊の見直しに留めた。以後、設備計画等と連携しながら検討を進めていく。

④その他(特記事項)

□標本収蔵庫空調関連配管の漏水(7月～)

前年に故障した収蔵庫空調は、6月に復旧したが、関連する配管は未更新だったため、漏水が頻発した。漏水の度に空調機を停止しなければならず、標本への影響も懸念され、早急な配管更新を県に求めた。30年度に更新される予定となっている。

□屋外通路(モグラの道)更新工事の実施(9月～)

経年劣化による通路の更新、及び雨天時対策の屋根の整備。国立公園内ということで景観に配慮しつつ、利用者への利便性向上のため、島根県、施工業者とも協議しながら工事を進めている。(平成30年4月完成)

□消防･非常放送設備及び屋外カメラ類更新(9月～翌年1月)

耐用年数を経過した消防･非常放送設備等が大幅に更新された。消防設備関係では、事象の発生位置と内容が防災受信盤画面に分かりやすく表示され、放送設備も停電時でも使用方法が容易となり、非常時の利用者誘導がよりスムーズに行えるようになった。

また、館周辺を映像で紹介、記録するためのカメラが更新されたほか、館内照明の大部分がLED化され、運営面、管理面での効果を期待している。

２．調査研究、資料収集･整理事業

（１）事業概要

自然系の博物館として、地域の自然史解明や自然環境保全に資する調査研究及び、博物館資料の収集･整理･保管を行っている。また、外部の行政機関などからの調査研究等の依頼についても、当財団がもつ専門知識を活かすことができるものについては、積極的に受託･協力している。

（２）調査研究

①研究項目と成果概要

ａ 県民や行政の課題となっている調査研究

□レッドデータブック掲載植物の現況調査(一部環境省からの受託)

環境省レッドリスト改訂のための調査にあわせて、環境省版及び島根県版のレッドデータブックに掲載されている植物を対象として、有識者の協力を得ながら既存情報の整理や現地での確認調査を行った。(井上雅仁)

□三瓶山草原の管理と草原性希少植物保全に関する研究

三瓶山の草原保全のための知見を集積することを目的として、遊歩道沿いでの刈り取りの負荷による草原性植物の開花の変化、希少植物の開花･結実のモニタリング調査などを行った。これらの結果は、保全活動の内容を検討するための資料として活用した。また、三瓶山草原の保全のために、他地域の草原研究者と情報交換を行った。(井上雅仁)

□自然環境保全地域等(地倉沼、隠岐世界ジオパーク)の動植物調査

県立自然公園である地倉沼(津和野町)を対象に、植物と昆虫を中心とした現地調査を行った。また、世界ジオパークの登録地である隠岐諸島を対象に、近年の分布状況が不明であった動植物を対象に確認調査を行った。(井上雅仁･三島秀夫)

□旧ふれあいの里奥出雲公園における希少鳥類等生息調査(サントリー世界愛鳥基金、サントリーホールディングス㈱から助成)

さえずりの森(旧ふれあいの里出雲公園)における鳥類の生息状況の把握を目的に、希少鳥類の繁殖調査と構成種の把握調査を行った。希少鳥類調査では、アカショウビンとクロツグミを対象として3年前からジオロケーターやGPSロガーを装着して放鳥し、越冬地の解明を進めている。本年度はサントリー世界愛鳥基金より支援を受けて、小型GPSロガーをアカショウビンとクロツグミ9羽に装着することができた。構成種の調査では、平成23年度にナラ枯れ対策として森林の一部が伐採されたことから、環境の変化とその影響についての検討を行っている。(星野由美子)

□特定外来種ソウシチョウの移動特性調査

特定外来種ソウシチョウは現在、全国的に分布を広げ定着が進みつつある。島根県内でもその生息地が広がりつつあり、各地で目撃事例も増えている。そこで、県内の繁殖地･越冬地･中継地と思われる場所で、カラーリングを装着し、その移動の特性について調査を行っている。(星野由美子)

□ダイコクコガネ等の希少昆虫調査

東の原では平成28年秋から放牧が中断され、その間ダイコクコガネも確認できなかったが、再開された平成29年夏以降に、本種の発生を確認した。ただし、再開後の放牧数は少なく、休止の影響のためか確認数は以前よりも少なかった。また昨年に続き雲月山でホソハンミョウの調査を行ったが確認できなかった。県で唯一の既知生息地であるが、生息環境が藪化で悪化しており、同所での生息可能性は低いと思われた。(皆木宏明)

□新種昆虫クロゲンセイの生息調査

島根県で発見された新種昆虫クロゲンセイの分布生態を明らかにするために、県内の生息地の確認や、成虫の発生状況の調査などを行った。(大畑純二)

□ミズラモグラ等の生息調査

三瓶山周辺で巣穴等の生息痕の有無について調査を行った。今後も引き続き、ミズラモグラ、コモグラの生息確認を行う予定である。(安藤誠也)

□ヤマネの生息調査

文献から過去の生息情報の確認を行った。新たな生息情報のあった吉賀町で現地調査を実施した。また益田市で採取された死体2頭を標本化した。(安藤誠也)

□石見銀山遺跡自然環境モニタリング業務(島根県教育委員会より受託)

石見銀山遺跡における世界遺産登録後の自然環境の変化を追跡するために、コアゾーンを中心に動植物のモニタリング調査を実施した。遺跡内では、既往調査で記録された希少動植物の大部分が確認された。大久保間歩では、例年と同じように4種のコウモリ類の冬眠が確認された。(大畑純二・三島秀夫・井上雅仁・安藤誠也)

□重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000、公益財団法人日本自然保護協会より受託)

環境省が生物多様性国家戦略の中で提唱しているプロジェクトで、平成15年からスタートした。全国にサイトを設け動植物の生息状況を長期的にモニタリングすることで、生態系の劣化やその他問題点の兆候を早期に発見し、生物多様性の適切な保全のための対策に資することを目的としている。サイトは、森林、里地里山、湿地などの生態系タイプごとに分けられ、三瓶山北の原は、全国的に減少しつつある草地があることから、里地里山タイプのコアサイトとして主に植物と鳥類の調査を実施中。(井上雅仁・星野由美子)

b 自然系博物館としての機能に資する研究

□三瓶火山噴出物の岩石化学的研究

三瓶火山の過去7つの活動期の中で特に多様な噴火を引き起こした第Ⅳ活動期を対象に、当時のマグマだまりの温度圧力状態解明を目指すため、噴出物に含まれる造岩鉱物の化学組成分析を行った。(遠藤大介)

□太陽系外惑星を含む連星系及び変光星の観測

当館の60cm反射望遠鏡において冷却CCDカメラによるUBVRI多色測光観測を実施した。本年度は、接触連星TX Cncの測光観測で得られた光度曲線を解析し、なよろ市立天文台で開催された連星系・変光星・低温度星研究会2017において、その結果を発表した。また、当館の4連式クーデ望遠鏡の特徴を発揮できるユニークな観測として、連星系及び変光星の光干渉計観測を候補として検討しており、本年度は予備的な実験として、白色光を光源とした光干渉計実験を実施した。(矢田猛士)

□三瓶山周辺繁殖鳥類の渡り調査

三瓶山周辺は、天然記念物としての三瓶山自然林などがあり、多くの夏鳥などが繁殖を行っている。そこで、繁殖鳥類のモニタリングも含め、鳥類に標識を行って渡り調査を実施することで、越冬地やルート解明につなげるための調査を行う。平成29年度は三瓶自然館水場周辺で標識調査を実施したほか、三瓶山域内で冬鳥であるミヤマホオジロの繁殖が2年連続で確認された。(星野由美子)

□三瓶山の昆虫相に関する調査

西の原での調査で、昨年に続き県RDB種のトラサンドクガ、ショウリョウバッタモドキ、ハルゼミを確認した。特にトラサンドクガは5月中旬に複数個体を確認し、これまでの知見よりも早く発生していることが確認できた。また、キバネツノトンボの羽化直後の個体を含む複数個体を確認し、本種が西の原で発生していることが確認できた。本種も草原性種と考えられ、多くの県のRDBに指定された種であり、三瓶山の草原環境の指標となる種の1つであると思われた。(皆木宏明)

□堀田仁助(津和野町出身)の天球儀に関する研究

津和野町の太鼓谷稲成には、津和野藩士堀田仁助製作の天球儀が所蔵されている。平成28年度にこの天球儀を調査し、描かれている星座を特定している。平成29年度には調査時の映像をもとに「堀田仁助の天球儀」という5分程度の番組を制作し、三瓶自然館の天文展示コーナーにて公開した。(龍善暢)

□博物館の利用実態調査

年間を通じて、来館者から、居住地、来館動機などについて聞き取り調査を実施した。(龍善暢)

c 環境教育･環境学習に資する研究

□学習プラネタリウムの開発

投影前のアンケートや投影後の聞き取り調査に基づき改良したプログラムを実施した。(竹内幹蔵)

□字幕付きプラネタリウムの開発と投影(平成29年度全国科学博物館活動助成事業、公益財団法人全国科学博物館振興財団から助成)

字幕付きのプラネタリウムを投影する方法として、スマートグラスの応用を試みた。字幕付きのプラネタリウム番組「星空めじるしめぐり」を制作し、外部関係者を招いた試写によって、字幕の見やすさ等に改良を重ねている。(太田哲朗)

□池田鉱泉を含む天然の放射能を利用した放射線学習プログラムの開発

当館と地元の学校教員との共同でプログラム開発に取り組み、教員向け研修会「教員のための博物館の日」(平成29年8月8日及び18日開催)において紹介した。また、霧箱実験等に使用できる島根県内の天然の放射能調査及び授業実践として、平成28年9月の現地調査で確認された加田の湯及び頓原天然炭酸温泉ラムネ銀泉の温泉水を活用した放射線学習を、頓原中学校及び赤来中学校において実践し、その成果を平成29年8月に福岡教育大学で開催された日本理科教育学会全国大会において発表した。(矢田猛士)

②研究成果の公表(※印は館外の研究者)

□論文、報告書

龍　善暢(2018)島根県立三瓶自然館の来館者層②. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 37-40.
竹内幹蔵(2018)「三瓶廻り」カノープスの撮影. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 53-56.
太田哲朗･大草秀美･大谷朗子(2018)スマートグラスを使った字幕付きプラネタリウムの試み. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 75-76.
矢田猛士・片岡千修※・松本一郎※(2018)地域の温泉水を活用した放射線学習プログラムの構築. 島根大学教職大学院紀要1(印刷中).
大畑純二(2018)島根県江津市の砂質地域に生息するホンドキツネの自然誌. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 15-34.
安藤誠也(2018)ブタの四肢骨(豚足)を用いた教育・普及活動向け骨の組み立て体験活動について. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 77-79.

安藤誠也・大畑純二(2018)世界遺産登録後の大久保間歩におけるコウモリ個体数の推移. 世界遺産　石見銀山遺跡の調査研究 8: 21-25.

安藤誠也・遠藤大介・木村敏之※(2018)島根県出雲市多伎町の海岸より産出したヒゲクジラ類化石. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 57-60.

星野由美子(2018)島根県雲南市におけるコウノトリの繁殖に関する観察記録. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 69-73.

三島秀夫(2018)島根県で採集されたガ数種について. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 61-64.

皆木宏明(2018)島根県におけるカワラハンミョウの分布状況について. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 41-46.

皆木宏明(2018)島根県西部で確認したウスバカマキリについて. 島根県立三瓶自然館研究報告 16:65-66.

皆木宏明(2018)島根県で初確認されたチャイロスズメバチについて. 島根県立三瓶自然館研究報告16: 67-68.

井上雅仁・高橋佳孝※(2018)島根県三瓶山の刈り取り草原における絶滅危惧植物スズサイコの動態.島根県立三瓶自然館研究報告 16: 7-14.

片桐知之※・井上雅仁(2018)三瓶小豆原埋没林の古土壌より発見されたコケ植物遺体の分類学的再検討. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 1-6.

政倉　誠※・高田　学※・宮澤　滋※・中村　亮※・井上雅仁(2018)腐生植物(ホンゴウソウ)の移植事例. 島根県立三瓶自然館研究報告 16: 47-52.

□学会･研究会等での発表

太田哲朗(2017, 6)全天周映像のデジタル移行.全国プラネタリウム大会広島2017(広島)

竹内幹蔵(2017, 6)三瓶自然館の天体観察会 15年間の実績と今後の動向. 日本天文台協会第12回全国大会. (福岡)

矢田猛士・片岡千修※・松本一郎※(2017, 8)地域の温泉水を活用した放射線学習プログラムの構築.日本理科教育学会第67回全国大会. (福岡)

矢田猛士・鳴沢真也※(2017, 9)三瓶自然館での接触連星TX Cncの多色測光観測. 連星系・変光星・低温度星研究会2017. (北海道)

安藤誠也・大畑純二(2017, 9)石見銀山遺跡大久保間歩における過去10年間のコウモリ個体数の推移. 日本哺乳類学会2017年度大会.(富山)

横川昌史※・井上雅仁・堤　道生※・白川勝信※・高橋佳孝※(2017, 10)熊本県阿蘇外輪山における草原再生に伴う 7 年間での植生の変化.植生学会第 22 回大会.(沖縄)

矢田猛士(2017, 12)自然系博物館や科学館における気象観測及びデータ利用. 第4ブロック研究推進フォーラム 気象データ利用研究会オーガナイズドセッション.(山口)

井上雅仁・高橋佳孝※(2018, 3)火入れ草原における刈り取りの付加による草原性植物の開花の変化. 第65回日本生態学会大会.(北海道)

(3)資料の収集･整理

①自然系博物標本の収集と整理

a 指定管理財源における資料収集整理

□地学標本(岩石標本の収集、分類)

島根県内の地学情報及び資料の収集を行い、所蔵資料の整理を行った。個人及び自治体等の団体所有の岩石･鉱物･化石の視察を行い、今後の活用について検討した。また、地学資料のうち、登録化石標本についてデータベース化を行い、インターネット上に公開した

(http://muse.jpaleodb.org/shimane.nm.sanbe/)。そのほか平成29年度に収集した主な資料は以下のとおり。

・化石標本の寄贈受入：都野津層産の魚類化石など19点(三宅標本)
・模型標本の購入：エピオルニス卵など4点
・化石標本の購入：エディアカラ紀の生物化石など6点
・地図の製作：赤色立体地図1点

□動物標本(斃死鳥獣の収集と剥製作成)

本年度製作した動物標本は、次の3種5点である。

・哺乳類：ヤマネ剥製標本、ヤマネ骨格標本、ニホンジカ右後肢骨格標本
・鳥　類：コウノトリ本剥製、コウノトリ骨格標本

□昆虫標本(昆虫標本の収集、分類及び整理)

寄贈及び調査研究等により収集した昆虫類の標本化と同定整理作業を進め、未整理分の森山チョウ類標本や主として県内で採取した未整理の標本を中心に計2,000点の標本データの入力を行った。また、夏に開催したSHIN昆虫展の展示用としてカブトムシ、クワガタムシの標本化を行った。

・昆虫標本の購入：ヤシオサゾウムシなど16種29点

□植物標本(植物標本の収集、分類及び整理)

枚村喜則氏収集のさく葉標本の整理、キノコレプリカの製作、各種調査にあわせた植物標本の収集を行った。データベース化された標本情報は、国立科学博物館のS-netでの公開、GBIFでの公開を予定している。また、島根大学と協力して、館所蔵のさく葉標本のスキャニングを行い、同大学内のホームページ上で画像を公開した。

・枚村喜則氏収集さく葉標本のデータベース化と登録：1,000点
・キノコレプリカの製作：カラカサタケ、ドクツルタケ、マイタケ、ムラサキシメジ4点

□天体画像(その他有用な資料の収集、分類及び整理)

天文現象を画像･映像資料として記録した。また星座を中心に天文画像の撮影を行った。

・主な撮影対象：アルデバラン食、超小型人工衛星STARS-C、部分月食、皆既日食、太陽の巨大黒点、小惑星探査機OSIRIS REx、三瓶廻り(カノープス)、星座･星景など。

b 受託による資料収集整理

□三浦正昆虫館標本整理･活用業務(浜田市より受託)

浜田市三隅町出身の三浦正島根大学名誉教授が、浜田市に寄贈された昆虫標本の同定整理作業。合わせて収蔵展示を行っている三浦正昆虫館での標本管理の指導、昆虫館を会場に地元市民との昆虫採集や標本作成イベントを実施した。(皆木宏明･三島秀夫)

□自然史系博物館所有の生物多様性情報に関わるデータ提供(国立科学博物館より受託)

当館で整理が進められている枚村喜則氏収集植物標本のデータについて、所定の様式に変換し、1,000点のデータを提供した。提出したデータは、国立科学博物館が運営するS-netや、国際的なデータベースであるGBIFに掲載される。(井上雅仁)

②関連図書の収集

自然科学に関する図書や雑誌は、購入などにより収集に努めた。図書や雑誌の一部は常設の図書コーナーなどで来館者が閲覧できるようにしている。

・購入図書：79冊

③資料の保守燻蒸

資料劣化の原因となる害虫やカビの防除を目的として燻蒸を行った。収蔵庫の燻蒸については、空調改修工事の終了後に島根県からの受託業務として、専門業者によって殺虫殺カビの薬剤を使用して年1回実施した。展示、収集した資料を収蔵庫へ納める前や、常設展示の資料については、当館の大型常圧燻蒸庫を用いて適宜燻蒸を行った。

□収蔵庫の全室密閉燻蒸

対　象：第一乾燥収蔵庫及び第二乾燥収蔵庫の庫内及び収蔵資料

期　間：9月25日～28日

□燻蒸設備を用いた燻蒸

対象：鳥獣剥製、昆虫標本、植物さく葉標本など

期間：適宜実施

３．地域との連携、その他事業

（１）地域との連携

□姫逃池カキツバタ保全作業

実施日：6月11日（日）

参加者：約80人

内　容：姫逃池のカキツバタの成長を助けるための草刈り作業を市民グループ、行政機関、一般参加の市民ボランティアなどと協力して行った。協力団体は次のとおり。島根県環境生活部自然環境課、大田市環境政策課、大田の自然を守る会、NPO法人緑と水の連絡会議、環境省松江管理官事務所、国立三瓶青少年交流の家、大田市観光協会、島根県自然保護レンジャー、三瓶自然館インタープリターの会など。

□三瓶ヘルスツーリズム協議会

同協議会の協力を得て、「初夏のノルディックウォーク（5月28日）」と「秋のノルディックウォーク（11月3日）」を開催したほか、ホームページ等を用いたイベント情報の発信を行った。

□石見銀山遺跡世界遺産登録10周年事業実行委員会

10周年事業実行委員会の観光キャンペーン部会に参加し、観光誘客に向けた事業を計画する会議への参加のほか、7月2日の10周年記念式典等へ出席した。

□三瓶山神楽大会実行委員会

大田市観光協会三瓶支部、国民宿舎さんべ荘、国立三瓶青少年交流の家等と実行委員会を構成し、しまね文化ファンドの助成を受けて11月19日に石見神楽の共演大会を開催した。会場は交流の家講堂で、約400人の参加者があった。

□三瓶地域交流会（三瓶地区親睦鍋大会2017）

実施日：11月6日（月）

参加者：59名

会　場：国立三瓶青少年交流の家 食堂

内　容：三瓶地区全体の住民、施設で親睦を深め三瓶地域の活性化について語り合うことを目的に実施している交流会は、今年で３年目となる。今回は、青少年交流の家を会場に実施した。池田、北三瓶、志学の各地区住民や、施設、飲食店舗の職員らが集まり、近況や地域振興について意見を交わした。

□クリーン三瓶

実施日：5月21日(日)

参加者：約200名

内　容：三瓶山の関連機関が実行委員会を構成し、ボランティアを募って実施する清掃作業。当財団も財団設立以来、実行委員の一員として協力、参加しており、当年もお手植えの松から三瓶自然館まで、周回道路のゴミ拾い等を行った。当財団が担当した範囲では、年々ゴミは減少する傾向にあるものの、倒木や枯れ木、道路に積もった落葉が増えつつあり、景観への影響を懸念している。

(2)他施設との連携

□島根県自然系博物施設交流事業(三館交流)

三瓶自然館サヒメルと宍道湖自然館ゴビウス、しまね海洋館アクアスの県立自然系博物館施設が合同で、情報交換会や研修会を実施している。平成28年度、29年度は三瓶自然館が幹事館となっており下記の会議を開催した。

＊総務･広報担当者会議

実施日：11月20日(月)～21日(火)

会　場：三瓶自然館

＊学芸担当者会議

実施日：12月13日(月)～14日(火)

会　場：三瓶自然館

＊管理職会議

実施日：2月26日(月)

会　場：スカイホテル大田 会議室

□広島市こども文化科学館

広島市こども文化科学館の2階フロアに三瓶自然館のブースを設置している。平成29年度も随時更新を行い、企画展や天文情報、自然情報などを発信した。

□国立三瓶青少年交流の家

三瓶青少年交流の家の地域連携事業「三瓶地域教育ネットワーク事業」に参画し、三瓶小豆原埋没林公園のイベント「エキ･カラ」を共同開催した。このイベントは、大田市内の駅を起点に歩いて周辺の自然や歴史に関わる地を訪ねるもので、「馬路エキ･カラ」、「久手エキ･カラ」、「静間エキ･カラ」の3回実施した。詳細はｐ21に掲載。

(3)行政等への協力

□各種委員会等の受諾

名　　称	氏　　名	期　　間	依　　頼　　元
大田市環境審議会委員(副会長)	酒 井 浩 純	H27. 7. 1 － H31. 3.31	大田市長
国立三瓶青少年交流の家施設業務運営委員会委員	酒 井 浩 純	H28. 4. 1 － H30. 3.31	国立三瓶青少年交流の家所長
大田商工会議所参与	酒 井 浩 純	H28.11. 1 － H31.10.31	大田商工会議所会頭
三瓶山広域ツーリズム振興協議会監事	酒 井 浩 純	H27. 7. 1 －	三瓶山広域ツーリズム振興協議会会長
三瓶小豆原埋没林保存検討委員会委員	酒 井 浩 純	H27. 7.25 － H31. 7.24	島根県知事
大田市山村留学推進協議会委員	龍　善　暢	H20. 4. 1 － H30. 3.31	大田市教育委員会教育長
日本プラネタリウム協議会副理事長	龍　善　暢	H22. 7. 1 － H30. 6.30	日本プラネタリウム協議会
大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員	龍　善　暢	H24. 7. 1 － H30. 6.30	大田市教育委員会教育長

石見銀山遺跡客員研究員	中 村 唯 史	H23. 4. 1 ― H29. 3.31	島根県教育委員会教育長
出雲市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H27. 6. 1 ― H29. 5.31	出雲市長
江津市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H27. 4. 1 ― H29. 3.31	江津市長
大田市文化財保護審議員	中 村 唯 史	H28. 4. 1 ― H30. 3.31	大田市長
大田市社会教育委員	中 村 唯 史	H28. 2. 1 ― H30. 1.31	大田市長
益田市歴史を活かしたまちづくり検討委員	中 村 唯 史	H29.10. 1 ― H31. 3.31	益田市長
希少野生動植物種保存推進員	井 上 雅 仁	H21. 7. 1 ―	環境大臣
島根県自然環境保全審議会委員	井 上 雅 仁	H21.11.12 ― H32. 2. 6	島根県知事
石見銀山遺跡整備検討委員会委員	井 上 雅 仁	H20.10.20 ― H31. 9. 8	大田市教育委員会教育長
島根県環境影響評価技術審査会委員	井 上 雅 仁	H24. 1. 1 ― H31.12.31	島根県知事
石見銀山遺跡調査専門委員会委員	井 上 雅 仁	H26. 4.28 ― H32. 3.31	島根県教育委員会教育長
斐伊川放水路環境モニタリング協議会委員	井 上 雅 仁	H27. 3.16 ― H29. 3.31	国土交通省出雲河川事務所長
島根県農業農村整備事業環境情報協議会委員	星野由美子	H14. 4. 1 ― H30. 3.31	島根県農林水産部農村整備課長
自然観察指導員講習会全国講師	星野由美子	H16. 4. 1 ―	公益財団法人日本自然保護協会
島根県環境影響評価技術審査会委員	星野由美子	H17. 1. 1 ― H31.12.31	島根県知事
島根県自然環境保全審議会委員	星野由美子	H26. 1.16 ― H32. 2. 6	島根県知事
島根県国土利用計画審議委員	星野由美子	H28.10.25 ― H31.10.24	島根県知事
島根県満喫プロジェクト地域部会委員	星野由美子	H28.10. 6 ―	島根県環境生活部長
島根天文協会会長	竹 内 幹 藏	H17. 6 ―	島根天文協会
希少野生動植物種保存推進員	大 畑 純 二 (客員研究員)	H21. 7. 1 ―	環境大臣

（4）各種研修の受け入れ

□博物館実習

・広島大学　8月12日(土)～18日(金)　実習生：1名
・山口大学　8月12日(土)～18日(金)　実習生：1名
・宮崎大学　8月12日(土)～18日(金)　実習生：1名
・島根大学　11月 9日(水)～14日(月)　実習生：17名

□インターンシップ(職場体験)

・島根県立邇摩高等学校
10月18日(水)～19日(木)　生　徒：1名

□教育関係研修

・教員免許状更新講習(主催：国立三瓶青少年交流の家)
実施日：8月4日(日)
内　容：植物 …子ども達がワクワクする自然観察の技術【講義･実習】

Ⅲ. 地球環境の保全に関する活動支援事業

１．事業概要

当財団は、島根県の豊かな自然環境を守り、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めるために、地方自治体などの行政組織をはじめ、さまざまな地域課題の解決に自ら率先して取り組むNPO法人や任意団体、各種ボランティアなどを支援する中間支援組織として、分野横断的な取り組みや多様な主体が協働する取組を今後一層促進するため、活動の充実を図った。

また、島根県知事より島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、これまで地球温暖化対策に取り組んできた。2016年のパリ協定の発効を受け、国が進める新たな温室効果ガス削減目標の達成に向けた国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、県民一人ひとりに低炭素･循環型社会の実現につながる行動変容を促すため、多様な主体と協働･連携しながら活動を進めた。

２．地球温暖化対策

（１）家庭向け地球温暖化対策事業

①県地球温暖化対策協議会生活部会の運営

県地球温暖化対策協議会･生活部会の事務局として、同部会に参画する各種団体と連携しながら、生活者の立場で進める地球温暖化防止の県民運動に取り組んだ。

・運営委員会の開催　計2回(会場：タウンプラザしまね)
　第1回　8月3日　活動の実施状況の確認
　第2回　3月14日　活動評価、次年度活動活動計画の検討

②草の根で取り組むエコの種まき事業の実施

ａ　広報活動

・県民一般に対し、地球温暖化防止活動の重要性を伝え、実践を促すため、年間を通じた財団ホームページによる情報の提供、島根県広報の利用、リーフレットの配布等の広報活動を展開した。
・国が中心となって進めている日本が世界に誇る省エネ･低炭素型の製品･サービス･行動など、温暖化対策のためのあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」について、県内での周知を図るとともに、取組の促進を図った。
・秋季の「エコドライブ」、冬季の「給湯･暖房」を中心に家庭における省エネ促進を啓発する取り組みを行った。
・県内各地域において開催されたイベント等を活用し、島根県地球温暖化防止活動推進員、各市町地球温暖化対策地域協議会会員等と連携しながら運動を推進した。

ｂ　しまねエコライフサポーターズの活動支援

県内で活動する島根県地球温暖化防止活動推進員が連携し、地域での温暖化防止活動を主体的に企画･実施できるよう、推進員のネットワーク化と活動支援を行った。

□ネットワークの立ち上げ支援

概　　要：推進員が連携し、より地域に密着した温暖化防止活動を促進するため、「しまねエコライフサポーターズ連絡会」などで情報を共有しながら、活動を行った。

活動ｸﾞﾙｰﾌﾟ：7グループ(松江グループ、奥出雲グループ、出雲グループ、大田グループ、江津･浜田グループ、益田グループ、隠岐グループ)

連絡会の実施：第1回　5月22日　各地区の活動計画について
第2回　6月26日　各地区の活動計画について、推進員制度について
第3回　7月26日　各地区の活動状況について、推進員制度について
第4回　9月20日　各地区の活動状況について、推進員制度について
第5回　11月20日　各地区の活動状況について、推進員制度について
第6回　3月　8日　各地区の次年度活動計画について

□グループによる活動

概　　要：地域に密着した温暖化防止活動を行うため、居住市町村もしくは隣接する地域で、地域グループを構成することで推進員が連携し、主体的に活動を企画･実施した。活動にあたっては、各地域グループが企画書及び予算書を作成し、連絡会で合意形成を図った後、活動を実施した。財団は、事務局として経費の執行や事務処理等を行うことで、グループの円滑な活動を支援した。

活動内容：(松　江)子ども向け環境学習活動と環境フェスティバル展示、地域研修会の実施等
(奥出雲)地域への出前事業、文化祭展示、地域研修会とワークショップの実施等
(出　雲)環境講演会と再生可能エネルギー活用研修
(大　田)もったいない授業、再エネ講演会、おおだ自然エネルギーパークでの実演
(隠　岐)保育園でのエコ活動、紙芝居、エコバッグ作り

c　エコドライブ推進キャンペーン

環境省他各省庁が連携して取り組む11月のエコドライブ推進月間に合わせ、エコドライブの普及啓発及びエコドライブの実践によるCO_2削減を目的としたキャンペーンを下記のとおり実施した。

概　　要：エコドライブの実践方法を分かりやすく解説したリーフレットを作成し、各市町村や各推進員等の希望者を通じて県内各所で配布した。また、エコドライブ推進月間の開始に合わせ、各市町地球温暖化対策地域協議会及び島根県地球温暖化防止活動推進員と協力し、県内の9市町で一斉にリーフレットを配布する街頭PR活動を行った。

実 施 日：11月1日～11月7日

配 布 数：3,500部

協力団体：安来市、松江市、出雲市、大田市、江津市、浜田市、益田市、奥出雲町、邑南町、まつえ環境市民会議、出雲市省エネルギービジョン推進協議会、大田市地球温暖化対策地域協議会、江津市地球温暖化対策地域協議会、浜田市地球温暖化対策地域協議会、益田市地球温暖化対策地域協議会、奥出雲町地球温暖化対策地域協議会、邑南町地球温暖化対策地域協議会

実施場所：プラーナ(安来市)、イオン松江店、出雲ドーム、イオン大田店、ゆめタウン浜田店、桜江B＆G海洋センター、イオン益田店、横田コミュニティセンター、道の駅みずほ

ｄ 親子で取り組むもったいない生活事業

幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組んでもらえるよう、「親子で取り組むもったいない生活事業」を幼稚園及び保育園を所管する県各課と連携し、各園に参加を呼びかけ、実施した。

□親子で取り組むワークシート

概　　要：幼稚園児、保育園児とその保護者に家庭内で省エネに取り組めるよう、「しまねっこと5つの約束」ワークシートを製作し、希望する幼稚園及び保育園に配布した。実施したワークシートは回収し、取組結果をとりまとめた。

実施期間：平成29年7月～平成30年2月

実 施 園：61園(参加園児数：2,027名、ワークシート回収数：588枚)

削 減 量：352kg-CO_2

□幼･保育園向け親子で取り組むミニエコ講座

概　　要：県内の幼稚園･保育園に参加を呼びかけ、希望した49園でミニエコ講座を実施した。講座では、絵本等の読み聞かせを行った後、布製のバッグにクレヨン等で絵を描いて自分だけのマイバッグを制作するワークショップを行った。

実施期間：平成29年4月～平成30年2月

実 施 園：49園(参加者数：1,189名)

推 進 員：のべ41名が活動

□小学校向け省エネワークシート

概　　要：松江市内の小学校4年生を対象に省エネワークシートを配布し、家庭における省エネ行動を促した。

実施期間：平成29年4月～平成30年2月

実 施 園：30校(参加者数：1,851名、ワークシート回収数：1,028枚)

削 減 量：2.5t-CO_2

推 進 員：のべ24名が活動

ｅ 多様な主体と連携した地球温暖化防止活動

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働･連携をすすめ、行政や環境団体とともに､主催あるいは共催として関わり活動の企画･運営･支援等を行った。

□打ち水大作戦

概　　要：身近に取り組める地球温暖化防止について、県民に広くPRするため、島根県知事も参加し、島根県地球温暖化防止活動推進員とともに打ち水を行った。

実 施 日：8月4日(金)

場　　所：松江市京店商店街中通りカラコロ大黒前

参加者数：約100名

主　　催：島根県環境政策課

協　　力：松江京店商店街協同組合、島根県地球温暖化防止活動推進員

□第12回2017キャンドルナイトまつえ

概　　要：環境省のライトダウンキャンペーンに合わせ、不要な電灯の消灯と家庭における省エネを呼びかける啓発キャンペーンを行った。松江市にゆかりのある力士の陣幕久五郎、雷電為右衛門をモチーフとした地上絵に約2,000個のろうそくを並べ点灯した。また、来場者に自転車発電機体験やライトダウンを呼びかけ、家庭の省エネについて普及啓発の支援を行った。

実 施 日：6月17日(土)

場　　所：松江城大手前広場
参加者数：約2,000名
主　　催：キャンドルナイトまつえ実行委員会((公社)松江青年会議所、松江ツーリズム研究会、まつえ市民環境会議、松江市観光ボランティアガイドの会、まつえ市民環境大学村、お城とまちづくりを考える会、松江エネルギー研究会、エコサポしまね)

□おおだ自然エネルギーパーク2018
概　　要：持続可能な地域づくりを目指して、再生可能エネルギーの利用やライフスタイルの転換を考え、体験できるイベントについて、事業の企画･立案、実施を連携･支援をした。(共催)
実 施 日：3月21日(水)
場　　所：おおだ春の彼岸市会場(大田市大田町)
参加者数：400名
主　　催：おおだ自然エネルギーパーク2018実行委員会
共　　催：大田市地球温暖化対策地域協議会、国立三瓶青少年交流の家
協　　賛：大田市森林組合
後　　援：大田市

ｆ　生ごみ減量の実施と見える化及び広報事業

p45「３.県民の３Ｒ推進事業」を参照。

（２）家庭の省エネ促進支援

COP21において、我が国が示した「日本の約束草案」では、家庭から排出されるCO_2を2030年までに2013年比で40%削減することとされており、今後より実効性あるCO_2削減対策が必要となる。島根県においても家庭部門のCO_2排出が課題であり、これらの削減を進めるため、家庭の省エネ行動へとつなげる普及啓発を行った。

①家庭における省エネの見える化の推進

環境家計簿記帳(家庭で使う電気、ガス、灯油の使用量をチェック)の啓発・普及を図った。なお、環境家計簿記帳については、利用者の減少が著しいため、今年度末をもって事業を終了し、今後は、「うちエコ診断」の取組推進を行っていく。

ａ　家庭の省エネ情報の発信

多様な世代に家庭の省エネに取り組んでもらえるよう、情報誌などわかりやすく、実践しやすいアイデア等を掲載し、普及啓発を図った。

□省エネ啓発記事の掲載
概　　要：子育て世代向けに家庭でできる省エネについて情報提供することを目的に、県内の幼稚園･保育園へ広く配布されている情報誌に国民民運動「COOL CHOICE」でのチェックポイントの紹介と併せて「うちエコ診断」を紹介した。
掲 載 誌：情報誌「クルール」
発行部数：30,000部
発 行 月：3月
配 布 先：県内東部及び鳥取県西部の幼稚園、保育所等

ｂ 家庭エコ診断の実施

家庭のエネルギー使用量や地域性、ライフスタイルに合わせてCO_2排出量や光熱費の削減に効果的な対策を提案する「うちエコ診断」について実施機関の認定を受け、診断士の登録及び診断業務を行った。

□診断の実施

概　　要：県環境政策課、市環境担当課等と連携して受診者を募り、県内13会場に診断士を派遣し、診断を行うとともに1件の訪問診断を行った。診断結果に基づき、対策提案を行うとともに、事後調査を実施し、受診者の対策状況を把握した。

実施件数：100件

実施場所：会場診断：5市町13会場、訪問診断：1町1カ所

削 減 量：29,150kg-CO_2/年(一世帯あたり、940kg-CO_2/年・世帯。但し、事後調査の回答を得た31件によるもの。)

診断士数：10名

ｃ エコライフチャレンジしまね(環境家計簿記帳)の実施

環境家計簿(愛称「エコライフチャレンジしまね」)は、県民自らが家庭のエネルギー種別使用量を入力することで家庭からのCO_2排出量を算定するツール。これを継続して利用することで、年間のエネルギー使用の傾向とそれに合わせた対策を立てることができ、家計の無駄に気が付き、節約にもつながるなど、家庭での地球温暖化防止活動の促進に有効な取組である。

□環境家計簿記帳(郵送版)

概　　要：各家庭からのエネルギー使用報告(3ヶ月毎)に基づき、診断書、診断コメントや類似家庭との比較を作成・送付し、省エネ関連情報を提供するなど、家庭での身近な温暖化防止(エコライフ)の取り組みを推進した。

利用者数：延べ632名(年4回)

□環境家計簿(ダウンロード版)

概　　要：昨年度WEB版環境家計簿の廃止に伴って、これを代替えする機能として、Microsoft Excelのワークシートを当財団のホームページからダウンロードして記帳を行うダウンロード版環境家計簿の提供を行った。

利用者数：112ダウンロード

②COOL CHOICEセミナーの実施

低炭素型の「製品」「サービス」「ライフスタイル」など、地球温暖化対策につながるあらゆる「賢い選択」について知り、誰もが暮らしの中の様々な場面で行動することを促すため、「COOL CHOICEセミナー」を県内市町村及び地球温暖化対策地域協議会と連携し実施した。

□エコドライブセミナー

概　　要：身近にできるCOOL CHOICEとしてエコドライブを知って学べる場として、エコドライブシュミレーターなどを用いた体験を行えるセミナーを行った。

実施日と場所：(松江市)　10月28日(土)、城北公民館、参加人数：17名
(津和野町) 10月29日(日)、津和野町体育館、参加人数：26名
(出雲市)　11月 3日(金)、出雲ドーム、参加人数：43名
(松江市)　11月 7日(火)、イオン松江ショッピングセンター、参加人数：8名
(飯南町)　11月26日(日)、飯南町役場、参加人数：15名

□高齢者の健康と住まいの省エネセミナー

概　　要：COOL CHOICEがさまざまなコベネフィットを生み出すことを知る機会として、リフォーム時に実施できる健康対策と省エネ対策について学べるセミナーを行った。

実施日と場所：(出雲市)　10月11日(水)、さんぴーの出雲、参加人数：9名
(松江市)　10月12日(木)、プラバホール、参加人数：26名
(奥出雲町) 11月14日(火)、カルチャープラザ仁多、参加人数：9名
(浜田市)　11月16日(木)、いわみーる、参加人数：9名

□インテリアの見直しによる省エネ！

概　　要：インテリアの見直しによって、視覚的な効果も取り入れながら、比較的安価にできる省エネ対策について学ぶセミナーを行った。

実施日と場所：(大田市)　12月 5日(火)、Rope、参加人数：9名
(益田市)　1月27日(土)、正直屋、参加人数：17名

(3)地球温暖化防止活動推進員の支援

島根県地球温暖化防止活動推進員(以下「推進員」という)は、島根県知事から委嘱を受け、91名(平成30年3月31日現在)が活動しているが、島根県から島根県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けている当財団が、その資質向上のための研修の企画･実施を行うとともに、推進員の支援および協働･連携し温暖化防止活動を行った。

①推進員研修の実施

a 地球温暖化対策に関する研修

□テ ー マ：「島根地域における気候変動事例調べワークショップ(第1回)」

概　　要：環境省が主催する地域住民とともに気候変動によって地域にどのような影響が起きているのか、また、起ころうとしているのかを知り、自分たちの地域で何ができるのかを考えるワークショップに参加した。

講　　師：「気候変動を巡る国内外の動向」
畑 中　直 樹 氏 (㈱地域計画建築研究所(アルパック))
「島根県の気候変動について」
奥村 喜美雄 氏 (松江地方気象台)
「米の品質低下とその対処について」
高 橋　眞 二 氏 (島根県農業技術センター)
「島根県近海の海水温の変動と水産資源への影響について」
向 井　哲 也 氏 (島根県水産技術センター)
「気候変動への適応」
片 岡　和 則 氏 (中国四国地方環境事務所)

実 施 日：平成29年12月10日(土)

場　　所：松江市市民活動センター(松江市)

参加者数：10名

□テ ー マ：「島根地域における気候変動影響事例調べワークショップ(第2回)」

概　　要：第1回ワークショップ実施後、地域における適応事例に関する調査を行った。第2回ワークショップは、その調査結果をもちより、気候変動影響事例調べワークショップを実施し、地域における影響とその対策について学びを深めた。

実 施 日：平成30年2月12日(月)
場　　所：島根県民会館(松江市)
参 加 者：6名

b 国民運動「COOL CHOICE]を学ぶ研修

□テ ー マ：「COOL CHOICE」を広めるために
概　　要：中長期的視野に立った低炭素社会の地域づくりについて学ぶとともに、温暖化対策にかかる新たな国民運動である「COOL CHOICE」について理解を深め、「COOL CHOICE」を普及啓発するうえで、個人や地域の特性を活かした伝え方を学んだ。
講　　師：「島根で取り組む低炭素な地域づくり」
藤野　純一 氏（国立環境研究所）
「COOL CHOICE普及拡大に向けて～うどん県の事例～」
福家　由香 氏（公益財団法人香川県環境保全公社）
「"COOL CHOICE"を広めるために」
森　　高 一 氏（株式会社森企画）
実 施 日：2月22日(木)～23日(金)
場　　所：松江テルサ
参加者数：21名

c スーパー推進員研修

概　　要：普段の生活の中で取組んでいるCOOL CHOICEを題材に、私たちのくらしの場面を9つ(衣、食、住、遊、買、暮、働、使、動)に分け、それぞれの場面でどんなCOOL CHOICEがあるのかをグループワークで話し合った。この中で、推進員が各地域で取り組んでいる地球温暖化防止に関して、啓発時に行っている「広める」、「伝える」といったときに大切な3つのゴールと6つの指標について共有し、地域で活動するときにCOOL CHOICEを伝える相手(対象者)に3つのゴールと6つの指標を意識して、伝えることが大切であることを学んだ。
実 施 日：9月7日(木)～8日(金)
場　　所：岡山国際交流センター（岡山県岡山市）
参加者数：76名（うち島根県7名）

②セミナー･テーマ別研修･地域別研修

地球温暖化に関するセミナーへの参加や、個別のテーマや地域別の研修を企画し、推進員がスキルアップを図る機会を提供した。

□セミナー「明るい未来の島根(低炭素社会)づくり」
概　　要：一般向けに企画したセミナーに併せて推進員も参加可能とし、地球温暖化に関する最新の知見について学ぶ機会を提供した。(セミナー内容については、p42「(４)地球温暖化にかかる普及啓発 ①」を参照)
実 施 日：2月18日(日)
参加者数：39名(うち推進員11名)

□地域別研修「再生可能エネルギー＆水資源見学会」
概　　要：しまねエコライフサポーターズ松江支部の企画による地域別研修として、「水」をテーマに、「飲料水」「揚水発電」そして水を育む「森」について学習した。
実 施 日：8月17日(木)
場　　所：サントリー奥大山ブナの森工場、中国電力俣野川揚水発電所(鳥取県日野郡江府町)
参加者数：24名

□地域別研修「地球にやさしい暮らし方」

概　　要：しまねエコライフサポーターズ出雲支部の企画による地域別研修として、風力などの再生可能エネルギーや木質バイオマスを活用した暮らし方について学習した。併せて、エコストーブによる炊飯等の体験をした。

講　　師：多久和　厚(NPO法人里山笑楽校)

実 施 日：7月24日(月)

場　　所：出雲市総合ボランティアセンター(出雲市今市町)

参加者数：20名(うち推進員13名)

□地域別研修「木質バイオエネルギーと温暖化防止と地域活性化」

概　　要：しまねエコライフサポーターズ奥出雲支部の企画による地域別研修として、奥出雲町の恵みである森林を有効利用した「木質バイオマスの利用システム」を学び、地域資源の有効活用による温暖化防止と地域活性化について地元町民も参加し学習した。

講　　師：伊藤勝久(島根大学生物資源科学部教授)

実 施 日：8月5日(土)、6日(日)

場　　所：奥出雲多根自然博物館、仁多郡森林組合事業合同センター

参加者数：41名(うち推進員11名)

□地域別研修「自然エネルギーセミナー　あなたの太陽光発電、本当に大丈夫」

概　　要：しまねエコライフサポーターズ大田支部の企画による地域別研修として、導入が容易でメンテナンスフリーとされ急速に普及した家庭用太陽光発電設備について、問題点と対策を学んだ。

実 施 日：9月16日(土)

講　　師：加藤和彦(国立研究開発法人産業技術総合研究所太陽光発電研究センター)

場　　所：大田市民会館

参加者数：24名(うち推進員6名)

(4)地球温暖化にかかる普及啓発

COP21におけるパリ協定の採択を受けて、これからの地球温暖化防止に対する機運を高めるため、パネル展やセミナーを開催した。また、啓発広報誌を発行し、これらに関する情報発信を行うとともに、普及啓発を行った。

①地球温暖化についてのセミナー

県民一般を対象に、専門家及び地元講師が、低炭素社会づくりに向けた現状と課題に関する最新知見を紹介し、地元講師を交えた意見交換会を実施した。講演会では、このたび島根県が策定した「しまね流エコライフ発信プロジェクト」の検討経過や取りまとめ内容のほか、低炭素社会づくりで期待される、地域課題の解決策等も紹介した。

実 施 日：平成30年2月18日(日)

場　　所：ビッグハート出雲（出雲市）

参加者数：35名

実施内容：講　　演　「2030年 しまねの暮らし」

田 中　輝 美 氏（ローカルジャーナリスト）

話題提供　「島根の豊かな暮らしを自然エネルギーで支える」

南 原　　順 氏（コミュニティエナジー㈱）

意見交換　「エネルギー自給」×「持続可能な地域づくり」

コメンテーター　石原　孝子 氏（島根県地球温暖化対策協議会生活部会）
山本　冨子 氏（NPO法人 かえる倶楽部）
今井　祥紀 氏（認定NPO法人 緑と水の連絡会議）
南原　　順 氏（コミュニティエナジー㈱）
伊藤　玲子　　（しまねエコライフサポートセンター）

②地球温暖化防止啓発パネル展の開催

地球温暖化の現状を伝え、県民による地球温暖化防止活動を促すため、図書館や市役所と連携し、温暖化に関するパネル展を開催した。会場内では身近な省エネ行動を紹介するリーフレットの配布や、温暖化防止活動の提案募集も行った。

□いずも産業未来博2017

概　　要：地球温暖化問題とCOOL CHOICEを分かりやすく伝えるために、イベントブース内で、啓発タペストリー掲出やリーフレット配布を行った。同じブース内で、エコドライブシミュレーターを使ったエコドライブ講座及びエコ診断を併せて行った。

実 施 日：11月3日(金)

場　　所：いずも産業フェア(出雲ドーム、出雲市矢野町)

□その他の出展

松江市環境フェスティバル11月5日(日)、やすぎ環境フェア9月10日(日)、飯南町コスモス祭10月8日(日)にも同様に出展した。また、美郷町のみさと館(8月23日～9月6日)、島根県立図書館(3月3日～4月14日)において、啓発タペストリー掲出やリーフレット等の配布を行った。

③地球温暖化防止啓発広報誌の発行

地球温暖化の現状や国内外の情勢、影響と対策、地域での取り組みなど、身近なテーマと関連づけて情報提供を行う広報誌「しまエコ」を、年3回発行した。

概　　要：「COOL CHOICE」をテーマとして、島根県の地域性を踏まえた身近でエコな取組や、暮らしの中で気軽にできる行動など、わかりやすく「賢い選択」について知ることができる情報を多様な視点で取りあげた。また、地球温暖化防止対策として、適応策と緩和策を紹介した。用紙には国内産の竹100%でできた竹紙を使用し、環境への配慮とともに身近な資源の有効活用を啓発する工夫を行った。

発行部数：9,000部(3,000部×3回)

配 布 先：各市町村担当課、島根県地球温暖化防止活動推進員、県内の環境活動団体、全国及び各県センター、県内図書館およびコンビニエンスストア等

発行テーマ：しまエコ Vol.11[2017年8月発行]
【どっちがクール？】冷蔵庫編
【しまエコ流COOL CHOICE】その1
【しまねのエコ技】風鈴「風の音」
しまエコ Vol.12[2017年11月発行]
【特集】命を守る 適応策
【しまエコ流COOL CHOICE】その2
【しまねのエコ技】藍染め手ぬぐい＆マフラー
しまエコ Vol.13[2018年2月発行]
【特集】温室効果ガスを減らす！緩和策
【しまエコ流COOL CHOICE】その3
【しまねのエコ技】リメイク＆リペア木工家具

（５）市町村事業の支援

市町村温暖化対策担当課が、限られた人員と予算で効率的な地球温暖化対策事業を実施できるよう担当者のスキルアップのための研修や事業の企画支援（相談・助言・協力）を行った。

①担当者研修会の実施

概　　要：国連の進めるSDGs（持続可能な開発目標である）について学び、環境に配慮した「持続可能な地域づくり」について意見交換を通じて今後の各市町の事業のヒントを得る機会とした。

実 施 日：2月21日（水）

講　　師：国立環境研究所 社会環境システム研究センター 主任研究員 藤野純一氏

場　　所：県庁講堂

参加者数：16名

②環境省補助事業（地方公共団体と連携したCO2排出削減促進事業）採択団体の支援

□浜田市

概　　要：COOL CHOICE市長宣言、はまチャリ（駅前のレンタサイクル）の活用策を大学生等と検討し市街地の自転車マップを作成、ラッピングバスでエコドライブを普及啓発、クールビズや省エネ機器への買替をPRした。

支援回数：5回

□益田市

概　　要：COOL CHOICE市長宣言、市内小学6年生の環境教育（学校・家庭の省エネ取組提案と普及、実践活動）、地元スーパーで生産・輸送の段階でのCO_2排出削減（地産地消商品や詰め替えタイプの商品の選択、リサイクルトレー）につながる「賢い選択」を促すPR活動、地産地消表示、スポーツイベントへ取組PRブース出展。

支援回数：5回

□飯南町

概　　要：COOL CHOICE町長宣言、CO_2排出の現状を学び校内の省エネを考える小学生への環境教育、ラッピングバス、エコドライブ講座、スポーツイベントへ取組PRブース出展

支援回数：3回

（６）全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）との連携

全国地球温暖化防止活動推進センターに指定されている一般社団法人地球温暖化防止全国ネット（平成22年8月設立）との連携に努めるとともに、中四国ブロックや他県の地域地球温暖化防止活動推進センターとの共通事業に取り組み、逐次情報交換を行った。

全国センター会議　　：1回（6月）、東京、2名出席

ブロック代表者会議　　：1回（6月）、東京、1名出席

合同ブロック別調整会議：3回（4月、2月、3月）、東京、各1名出席

中四国ブロック会議　　：4回（5月、6月、9月、3月）、岡山市、各1名出席

３．県民の３Ｒ推進事業

可燃ゴミの減量化によるCO_2の排出削減及び自然界における物質循環の仕組みを学ぶ機会とするため、コンポスト容器及びミミズコンポストを用いた家庭ゴミの堆肥化を普及する事業を実施した。

□意見交換会の実施

概　　要：益田市において多様な主体が連携し、協働でミミズコンポストを用いた環境学習を普及するため、連携団体による意見交換会を実施した。

実施回数：9回

体　　制：公益財団法人しまね自然と環境財団、益田市環境政策課、益田市地球温暖化防止地域協議会、益田市リサイクルプラザ、島根県地球温暖化防止活動推進員6名

□生ごみ減量をテーマとした環境学習の実施

概　　要：益田市内の教育関係施設にミミズコンポストを設置し、生ごみ減量の取り組みをテーマとした環境学習プログラムを実施した。

取組施設：ひかり保育園、まるに保育園、吉田こども園、中西小学校

□啓発動画の作成

概　　要：生ごみ減量と、地球温暖化防止の関わりについて、学識経験者のインタビュー、子ども園の実践紹介、ミミズ箱の作り方等を交え、わかりやすく説明する動画を作成した。管内ケーブル局で放送可能なものとした。

制 作 物：動画コンテンツ1本(7分)とDVDコピー30枚

□啓発チラシの作成

概　　要：ミミズを用いた生ごみ減量を普及する資料として、環境教育(生態系における分解者)や循環型社会(生ごみ堆肥化で可燃ゴミを減量)の取り組み、ミミズ箱のしくみ、COOL CHOICE等を紹介する内容とした。

制 作 物：3,000部

配 布 先：各市町村担当課、益田市民及び市内環境関連団体･島根県地球温暖化防止活動推進員等

□講演会の実施

概　　要：「土の中から世界をのぞく」と題し、金子信博教授(横浜国立大学大学院自然環境と情報部門)の公園、益田市の取り組み紹介、大型ミミズ箱内にすむ土壌生物の観察を行った。

実 施 日：平成30年3月4日(日)

会　　場：益田市立図書館(益田市)

参加者数：73名

４．環境保全活動支援

(１)情報収集及び情報提供

県民のニーズに考慮した環境関連ライブラリーや環境学習機材の整備等を図るとともに、各種メディアやホームページ、環境イベント、などを利用し、年間を通じて県民に情報提供を行った。

・貸出図書等の購入図書：17冊　　DVD：1枚

・パネル、機材の貸出　：17回

（２）地域の多様な主体との協働の推進

地域のニーズを踏まえた取組を促進するため、地域の多様な主体と協働･連携をすすめ、行政や環境団体とともに、活動の企画･運営・支援等を行った。

①県内の環境NPO法人等の意見交換会

県内で環境教育やバイオマスエネルギーの普及等に取り組んでいるNPO法人等を対象とした意見交換会を開催し、低炭素社会に関する情報提供やワークを通じて互いの活動や先進事例を共有するなどそれぞれの活動の活性化と拡大を図った。

概　　要：はじめに「2050年をエコで読み解くキーワード」と題して、国立環境研究所主任研究員の藤野純一氏に講演いただき、各団体の活動報告及び「持続可能な未来を思い描く」をテーマとして意見交換を行った。

実 施 日：6月30日(金)

場　　所：県立ふるさと森林公園学習展示館(松江市宍道町)

参加者数：19名

②セミナー「つづく、つながる地域づくりって？」

環境だけでなく、地域の社会や経済、そこに暮らす人々まで、地域がまるごと持続可能(サスティナビリティ)になる、そのような地域づくりとはどういうことか、なぜ大切なのかを考えるセミナーを4回にわたり島根県とともに開催した。

(第1回) テーマ：地域を元気にする「サスティナビリティ」って？
実施日：平成29年8月31日(木)
場　所：あすてらす、参加者：21名
講　師：志賀誠治氏(NPO法人ひろしま自然学校)
ゲスト：鹿熊勤氏(情報工房「緑蔭風車」代表)

(第2回) テーマ：地域で暮らす、自然と暮らす
実施日：平成29年9月21日(木)
場　所：島根大学、参加者：15名
講　師：志賀誠治氏(NPO法人ひろしま自然学校)
ゲスト：西村早栄子氏(NPO法人智頭町森のようちえん まるたんぼう)、深谷 治氏(NPO法人隠岐しぜんむら)

(第3回) テーマ：食べて守る、生きものの多様性
実施日：平成29年10月5日(木)
場　所：美郷町乙原集会所、参加者：22名
講　師：志賀誠治氏(NPO法人ひろしま自然学校)
ゲスト：安田亮氏(美郷町産業振興課)、安田兼子氏(吾郷地区婦人会)、森田朱音氏(おおち山くじら生産者組合)

(第4回) テーマ：持続可能に地域をおこすには？
実施日：平成29年12月8日(金)
場　所：島根大学、参加者：15名
講　師：志賀誠治氏(NPO法人ひろしま自然学校)
ゲスト：鹿熊勤氏(情報工房「緑蔭風車」代表)、西嶋一泰氏(大田市地域おこし協力隊)

③石見地域におけるＥＳＤ活動への参画

石見地域におけるESD(持続可能な開発のための教育)を普及し、地域における活動を広げるために、学校やボランティア、水族館、研究機関など多様な主体が連携し、沿岸地域における海の環境学習のESD化を目指すプログラム開発と実施に参画した。

概　　要：「石見の海、私たちの海の持続性」をテーマとして、ESDプログラムを企画・実施するワーキングチーム「いわみっこ」を立ち上げ、浜田市立原井小学校の野外冒険クラブを対象に、継続的なESDプログラムの実施と検証を行った。
実施期間：平成29年4月～平成30年3月
場　　所：浜田市立原井小学校周辺（浜田市原井町）
対　　象：原井小学校4～6年生
活動回数：6回
参加者数：各回30名
連携団体：公益財団法人しまね海洋館、浜田市環境課、浜田市立原井小学校、島根県水産技術センター、石見ケーブルビジョン、公益財団法人しまね自然と環境財団

（3）スタッフの講師派遣

県内の学校や環境団体などを対象に、ニーズに応じてテーマを設定し、環境に関する講演会やワークショップなど、スタッフを講師として派遣した。

□うちエコ診断士登録時研修
実 施 日：5月8日（月）
場　　所：（一財）広島県環境保健協会
参加者数：10名
講　　師：葭矢崇司、石原香織

□島根県エコリーダー研修
実施日と場所：5月10日（水）隠岐合庁
5月15日（月）浜田合庁
5月18日（木）出雲合庁
5月23日（火）県庁講堂
対　　象：島根県職員
参加者数：187名
講　　師：葭矢崇司

□生ごみダイエット講座
実 施 日：6月16日（金）、28日（水）
場　　所：松江市城北公民館、出雲市役所くにびきホール
参加者数：40名
講　　師：野崎　研

□島根県環境生活部研修
実 施 日：7月5日（火）
場　　所：島根県庁
内　　容：「地球はこれからどうなるの？～地球環境問題を解決するためのヒントを探る～」
対　　象：島根県職員
参加者数：30名
講　　師：葭矢崇司

□断熱リフォーム事業説明会
実 施 日：10月16日（月）
場　　所：くにびきメッセ
テ ー マ：地球環境と今後の住まい
参加者数：50名
講　　師：野崎　研

□ニコニコ科学広場
実 施 日：11月11日（土）
場　　所：島根県庁
内　　容：「愛宕神社の植物のひみつ」
対　　象：松江市内の小学校3･4年生
参加者数：70名
講　　師：葭矢崇司

□大社中学校「いのちと環境にかかる講演会」
実 施 日：11月20日（月）
場　　所：大社中学校（出雲市大社町）
内　　容：「地球にやさしいってどんなこと？」
対　　象：中学生
参加者数：500名
講　　師：葭矢崇司

□子育て＆子育て支援の為の講座
実 施 日：12月1日（金）、6日（水）
場　　所：鹿島子育て支援センター「おもちゃの広場」（松江市白潟本町）、「たまゆつどいの広場」（松江市玉湯町）
対　　象：子育て支援センター利用者
テ ー マ：幼児向けワークショップと保護者向けエコ講座
参加者数：73名（保護者36名、乳幼児37名）
講　　師：石原香織

□ＥＳＤ学びあいフォーラム in 松江
実 施 日：1月28日（月）
場　　所：島根大学
内　　容：フォーラム全体のコーディネーター
対　　象：大学生ほか
参加者数：50名
講　　師：葭矢崇司

□松江農林高校「産業と人間」特別講義
実 施 日：3月13日（火）
場　　所：松江農林高等学校（松江市乃木福留町）
対　　象：総合学科１学年
テ ー マ：「地球規模で起こる環境問題」
参加者数：11名
講　　師：葭矢崇司

（４）環境団体等への協力及び支援

県内の行政機関や環境団体等が実施する事業について、ニーズに合わせて多様な協力及び支援を行った。

・相談　環境保全や温暖化防止についての相談
（行政機関）　200件
（そ の 他）　 80件

・事業協力　エコイベント等の出展
（行政機関が実施）　4カ所
（民間団体が実施）　2カ所

（５）人材育成（環境アドバイザー派遣）事業

地域住民や民間団体等が行う環境保全･温暖化防止に関する意識啓発、学習を促進するために、その指導者として専門分野別に「しまね環境アドバイザー」18名（任期1年）を委嘱、配置し、県内各地からの要請に応じて環境講座や地域ボランティアの育成及び実技指導を行った。特に、県環境政策課と連携を図り、学校への派遣を充実させた。

・委嘱：22名（地球環境15名、地域環境14名、生活環境11名、エネルギー11名（重複あり））
・派遣：直接派遣48回（うち学校21件）、紹介派遣2回

（６）環境保全活動支援事業

県内のボランティア団体や法人による環境保全･地球温暖化防止を目的とした主体的な取り組みを促すため、活動の開始、または、継続に要する資金の一部を助成した。本年度は、当初募集では、応募団体が少なかったため、二次募集を行った。

助成内容：ボランティア団体、NPO法人等：事業費の2/3以内助成で、80万円限度
募　　集：（一次）4月 1日～5月 9日
（二次）6月26日～7月31日
※当初の助成決定額が予算を下回ったため、2次募集を行った。
広　　報：（一次）募集チラシ及び申請の手引きの配布 2,500部
（二次）募集チラシ及び申請の手引きの配布 1,500部
説 明 会：4月に6会場（隠岐、松江、出雲、大田、浜田、益田）、9月に2会場（松江、浜田）において助成金合同説明会を開催。
審 査 会：（一次）6月23日に審査員3名により審査を行った。
（二次）8月21日に審査員3名により審査を行った。

	申請件数	申請事業費	申請助成額	交付決定件数	助成決定額
1 次 募 集	9 件	3,599千円	2,381千円	8 件	1,967千円
2 次 募 集	5 件	1,177千円	783千円	3 件	503千円
計	14 件	4,776千円	3,614千円	11 件	2,470千円

Ⅳ．北の原キャンプ場管理運営事業

本年度は、大田市から指定管理者として指名されて2期目5年間の3年目であり、引き続きケビンとテントサイト、ペット同伴バンガロー、ドッグランの管理運営を行った。県有施設時代からの運営で蓄積された経験を活かして安定した管理運営にあたるとともに、三瓶自然館の指定管理者としての利点を活かして、一体的な事業展開、PRにより好調な収入を維持している。

基本理念である「豊かな自然環境を活かし、自然に親しむ場を提供する」を実現するために、国立公園三瓶山の豊かな自然環境と、その自然に囲まれた施設の魅力を最大限に引き出し、来場者が自然の中での生活～アウトドアライフ～を楽しめるような管理運営を心がけた。

また、来場者の安全･安心への配慮を欠かすことなく、キャンプ初心者から中級者向けのイベントや、キャンプ用品の貸出、食材の提供など、これまでに培ったノウハウを活かしながら、新たな魅力づくりにも心がけている。また、国立公園の中にあるキャンプ場として、中国地方屈指の規模を活かして、利用の拡大を図るとともに、三瓶山観光の拠点施設として、三瓶自然館とともに大田市の観光を牽引する役割を果たせるように努めた。

１．利用促進業務

大田市、飯南町、美郷町で作る「三瓶山広域ツーリズム振興協議会」に参画し、特にアウトドアメーカー「モンベル」の店舗を活用したPRイベント「三瓶フェア」について主体的に企画、運営し、キャンプ場の知名度向上を図った。

また、西部勤労者共済会、モンベル、スポーツ量販店等と提携した各種割引企画を継続し、新規顧客の開拓にも努めた。

主な広報活動の実施内容は次のとおり。

・広島で開催された「島根ふるさとフェア2018」では、大田市観光協会と連携し、パンフレット配布などのPRを実施した。2日間で16万人以上の来場者があり、広島という最大の市場で有効な広報活動を行った。
・自社HP及び提携キャンプ関連HPに、ドッグランやイベントの紹介を掲載。
・ツイッターを活用し、最新の三瓶山とキャンプ場の情報を発信。
・島根県の観光情報サイト「島根情報ナビ」のアウトドアコーナーへの情報掲載。
・山陰中央新報「りびえ～る」の全面記事と広告の掲載。
・山陰中央新報「あ･るっく」への広告掲載。
・地元ケーブルテレビに出演し、ケビン宿泊と鍋のセットプランと歩くスキーをPR。
・松江市、出雲市の大型スポーツ用品店5店舗のキャンプコーナーに、パンフレットの配布継続。
・県内集客イベント「石見肉まつり（江津）」に出店し、1万人以上にキャンプ場をPR。
・大田市民を対象とした無料モニターを実施した。市のホームページや自治会への回覧での周知を図り、施設の認知度向上に繋がった。

２．管理体制

利用者が快適なアウトドアライフを過ごせるよう、繁忙期や閑散期の状況を鑑み、効率的なスタッフの人員配置を行った。

通常期はスタッフ7名の体制により、利用者の対応、施設･設備の安全点検及び環境美化等に万全を期している。また、場内の除草作業には専門のスタッフ6名を配置し、雑草により景観を損ねないよう配慮した。

利用者が増加する繁忙期はさらに4～8名程度臨時職員を増員し、宿泊施設の清掃、場内トイレ･シャワー棟の清掃、大量に排出されるゴミの処理等に当らせ、衛生管理を徹底した。

一方、利用者が激減する冬期間は正規職員スタッフ5名ですべてを対応し、人件費の節減と適正な人員配置に努めた。

３．施設維持管理

キャンプ場開設以来48年が経過しており、施設･設備の老朽化、経年劣化に伴う故障や不具合が多発している。大田市と協議を重ね修繕計画に沿った修繕作業を実施しているが、予期せぬ箇所の故障が続発するなど、修繕が追いつかない状況にある。今後も継続して発生することが懸念され、早急の課題となっている。

本年度においても多数の故障及び不具合が発生したが、利用者の快適で安全な利用を第一に、必要最低限の修繕を実施した。

主な修繕個所と修繕内容は次のとおり。

・ケビン給湯器交換

・管理棟裏水道配管、第4トイレ水道配管…部品交換

４．利用状況及び収支状況

利用者がケビンとバンガローに集中する傾向が一段落し、オートサイトと一番安価な一般サイトに戻りつつある。特に、一般サイトは大型の学校利用が増える時期に天候が安定したため、年間累計では、対前年比約112％の売上金額を確保した。

一方支出関係においては、修繕費の増加やケビン、バンガローの利用増に伴う清掃委託費の増加により、収支状況は厳しいものとなったが、経費削減を徹底することにより、最低限の利益を確保した。

５．自主事業

（1）イベントの実施

□ビギナーズキャンプ･セミナー

実施日：1回目　5月20日（土）～ 5月21日（日）
　　2回目　9月30日（土）～10月 1日（日）

参加者：1回目　10組38人
　　2回目　 5組16人

内　容：キャンプ初心者家族を対象に、テントの設営･撤収方法、火のおこし方、飯ごう炊さんの仕方を指導し、1泊の体験キャンプを行った。丁寧で実践的な指導に、参加者の満足度は高かった。

□ダッチオーブン･セミナー

期　日：6月18日（土）

参加者：4組9人

内　容：ワンランク上のキャンプ料理に挑戦したい家族を対象に、ダッチオーブンを使って、丸鶏のローストチキン、パエリア、ベイクドチーズケーキなど7種類の調理の仕方を指導した。道具の手入れ方法なども丁寧に指導し、参加者から高評価を得た。

□グランピング体験

期　日：10月14日（土）～10月15日（日）

参加者：96人

内　容：近年注目を集めている豪華なキャンプ「グランピング」が体験できるイベントを開催した。グランピングテントを設営し、内部にベットやソファーの家具を設置、装飾を行った。あいにくの悪天候であったが、参加者はとても興味深そうに体験を楽しんでいた。

（２）他イベントへの会場提供

□ノルディックウォーク

三瓶自然館が企画したイベントと連携し、会場の提供及びノルディックポールの貸し出しやパンフレット配布を行った。普段キャンプに縁のない参加者や、初めて訪れる参加者も多く、新たな客層に効果的なキャンプ場のPRになった。

□北の原ファンタジー

三瓶自然館の冬の人気イベント「北の原ファンタジー2018」と連携し、県内外から集まった親子連れ380名以上に、暖かい食事場所や外遊びを楽しむ会場を提供した。

（３）利便提供事業

キャンプ場宿泊者の利便性向上のため、食品の販売や、キャンプ用具の貸し出しを行った。

６．その他の事業

（１）地域と連携した観光振興に関する事業

国民宿舎さんべ荘と連携し、県内外から訪れたキャンプ場宿泊者に温泉割引券を配布し、多くの利用者が三瓶温泉を利用した。

（２）大田市全体及び三瓶山周辺観光のインフォメーション機能を担う事業

セントラルロッジ内に観光情報コーナーを設置し、大田市観光MAPを掲示し、キャンプ場宿泊者の観光案内を積極的に行った。登山者への登山ルートの案内をはじめ、温泉津温泉や石見銀山、三瓶小豆原埋没林など主要観光地へのルート案内、食事どころや大田市の見どころ紹介などを行った。

（３）三瓶広域ツーリズム振興協議会への参画

大田市、美郷町、飯南町1市2町および関係団体で構成される協議会に参画し、モンベル広島紙屋町店･岡山店で開催された「三瓶山フェア」において、キャンプを含む三瓶山エリアでのアウトドアをPRした。

Ⅴ．利 便 提 供 事 業

１．物販事業

（１）三瓶自然館

「ミュージアムショップひめのが」では、自然科学に関するものや三瓶山来訪の記念となる商品のほか、館のキャラクター「テンピー」の関連商品を中心に展開した。

また、企画展開催期間にはそのテーマに合う商品を特集し、展示と連動した売上げを図った。

（２）三瓶小豆原埋没林公園

受付周辺に物販棚を設置し、埋もれ木の派生材（発掘時に出土した倒木等）を利用した独自商品や近隣の製菓子店との共同開発商品、木工品、鉱物等の販売を行った。

（３）三瓶北の原キャンプ場

三瓶山北の原キャンプ場の「キャンパーズショップ北の原」では、宿泊者の利便向上を目的に、キャンプに関連する商品と食料品を販売した。また、夏期はバーベキュー、冬期は鴨鍋の食材セットを販売することで、手軽にキャンプができるイメージによる施設利用の促進を図った。

２．貸出事業

北の原キャンプ場において、テントや毛布、炊事用品等のキャンプ用品の貸し出しを行った。用品の貸し出しは、売上による収入のほか、利用者が用品を準備する負担が軽減されることによる利用拡大が期待される事業である。

キャンプ用品のほか、夏期はノルディックポール、冬期は歩くスキーとスノーシューの貸し出しを行った。

Ⅵ. 各 種 資 料

１．数値目標を掲げた運営

（１）入館者目標、収入目標の設定

各施設毎に利用者数目標又は利用料金収入目標を設定し、運営を行っている。

三瓶自然館では、夏期企画展の入館者数は目標を下回ったが、恐竜を取り上げた秋の企画展が好評を博した。これにより、年間では入館者数の目標はやや下回ったものの、利用料金収入は目標を上回ることができた。

埋没林公園は、ほぼ前年実績を目標としているが、右肩下がり傾向に歯止めがかからない状態が続いている。計画されているガイダンス施設の完成に期待がかかる。

北の原キャンプ場は、前年度があまりにも好成績であったため、前年実績にはおよばなかったが、現指定管理において算定した目標は上回り、好調を維持している。

（２）全施設の目標値と達成状況

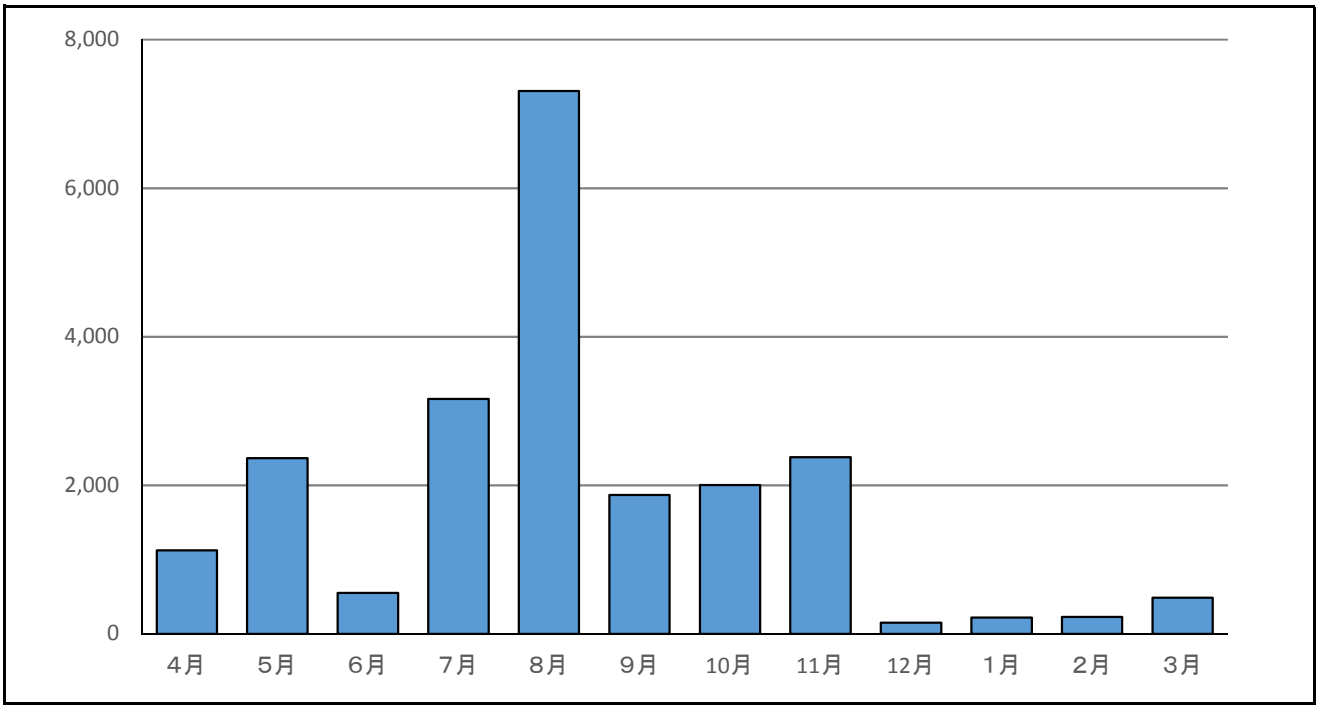
平成29年度　施設別月別目標達成率一覧表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三瓶自然館（天体含む）入館者数（人）	H29目標	6,000	14,000	5,000	17,000	33,000	15,000	17,000	6,000	2,000	3,500	3,000	4,000	125,500
	H29実績	6,189	14,500	4,505	15,471	30,905	10,057	10,818	10,438	1,412	4,304	2,646	3,472	114,717
	達成率	103.2%	103.6%	90.1%	91.0%	93.7%	67.0%	63.6%	174.0%	70.6%	123.0%	88.2%	86.8%	91.4%
天体観察会入館者数（人）	H29目標	700	1,300	700	1,300	2,200	1,400	800	100	100	100	100	200	9,000
	H29実績	373	1,387	275	1,405	1,958	652	310	200	44	211	164	119	7,098
	達成率	53.3%	106.7%	39.3%	108.1%	89.0%	46.6%	38.8%	200.0%	44.0%	211.0%	164.0%	59.5%	78.9%
埋没林公園入園者数(人)	H29目標	1,300	2,800	1,300	2,300	3,300	2,000	2,600	2,500	500	500	400	1,000	20,500
	H29実績	1,373	2,835	1,628	1,766	3,103	1,512	1,920	2,446	337	352	203	817	18,292
	達成率	105.6%	101.3%	125.2%	76.8%	94.0%	75.6%	73.8%	97.8%	67.4%	70.4%	50.8%	81.7%	89.2%
キャンプ場利用料金（千円）	H29目標	700	2,600	700	2,500	6,000	2,600	1,241	700	200	200	200	200	17,841
	H29実績	838	3,189	621	2,619	6,455	1,405	1,659	1,066	133	216	248	178	18,627
	達成率	119.7%	122.7%	88.7%	104.8%	107.6%	54.0%	133.7%	152.2%	66.6%	108.2%	124.1%	88.9%	104.4%
物販・貸出売り上げ（千円）	H29目標	900	2,650	750	3,350	6,850	2,530	1,850	1,050	450	380	380	510	21,650
	H29実績	935	2,528	690	2,603	6,376	1,827	1,755	1,696	235	347	279	678	19,949
	達成率	103.9%	95.4%	92.0%	77.7%	93.1%	72.2%	94.9%	161.5%	52.2%	91.2%	73.4%	132.9%	92.1%

（３）収入実績

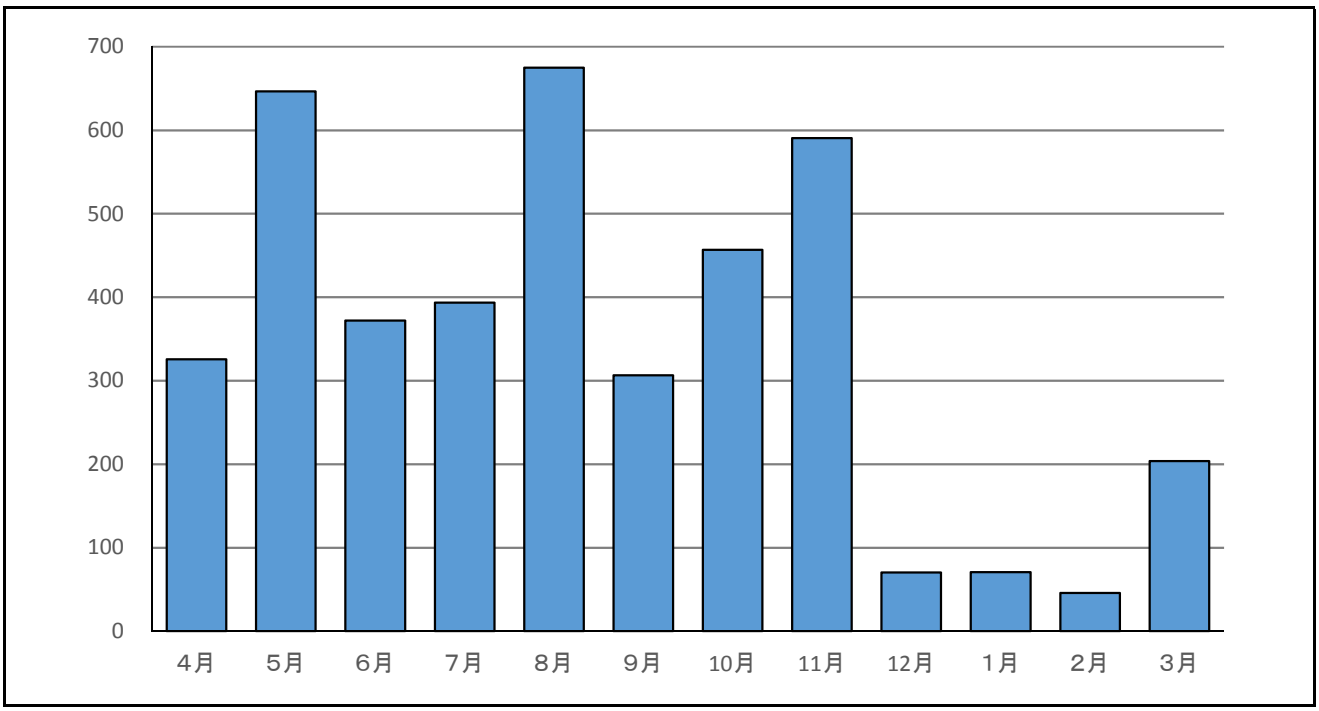
□三瓶自然館収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	1,123	2,365	552	3,163	7,309	1,868	2,003	2,378	149	219	229	485	21,843



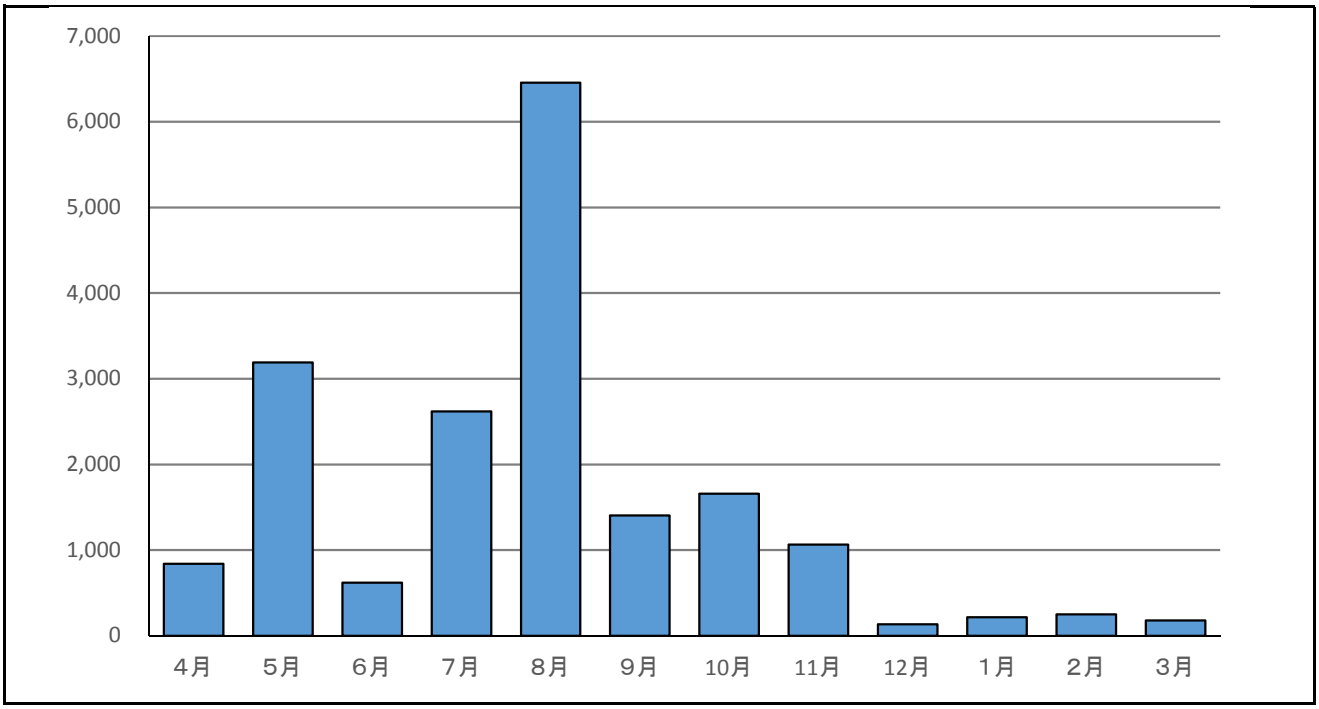
□埋没林公園収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	326	647	372	394	675	306	457	590	70	71	46	204	4,158



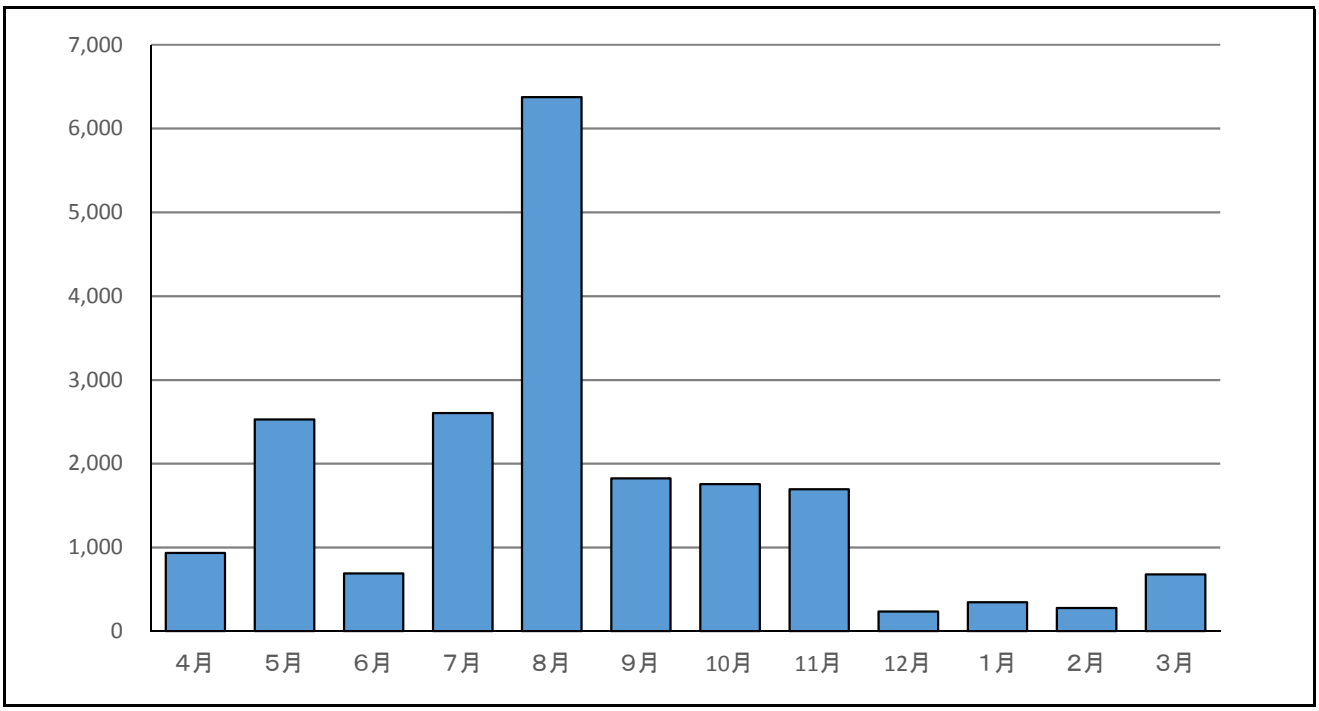
□北の原キャンプ場収入状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	838	3,189	621	2,619	6,455	1,405	1,659	1,066	133	216	248	178	18,627



□利便提供事業収入状況

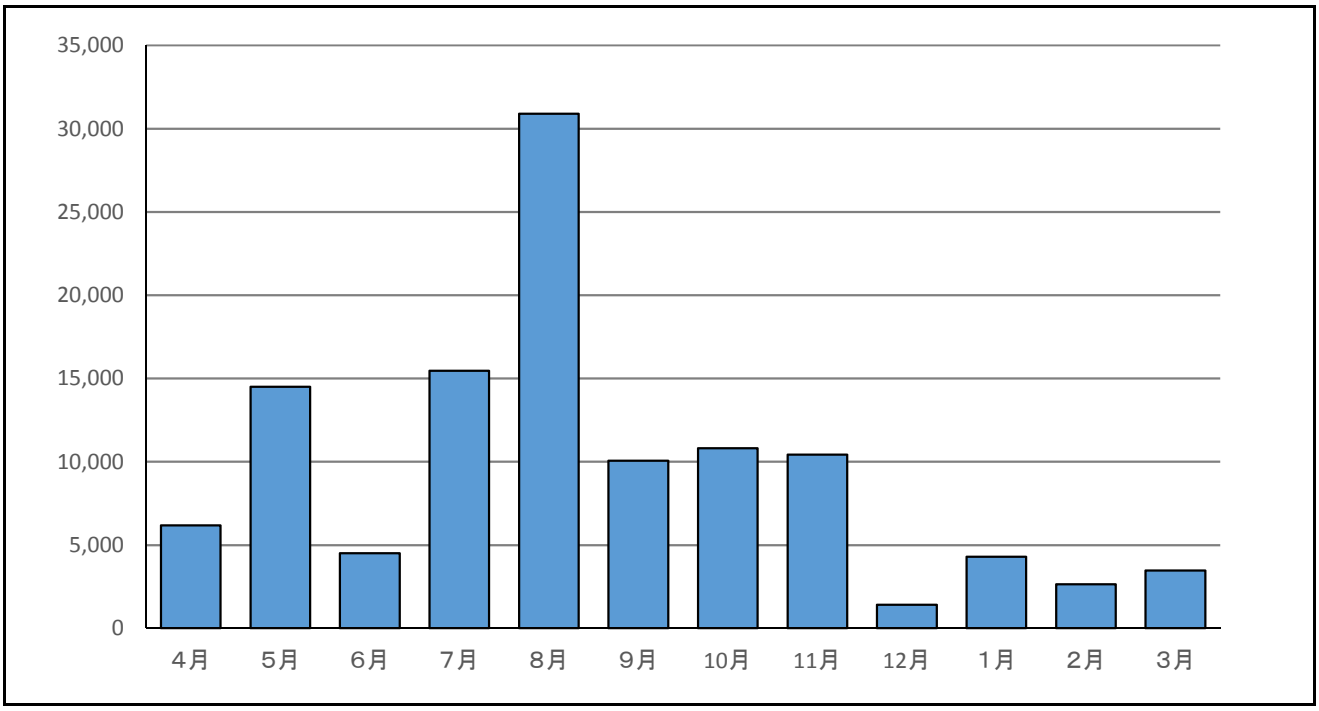
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収入額(千円)	935	2,528	690	2,603	6,376	1,827	1,755	1,696	235	347	279	678	19,949



（４）利用者数

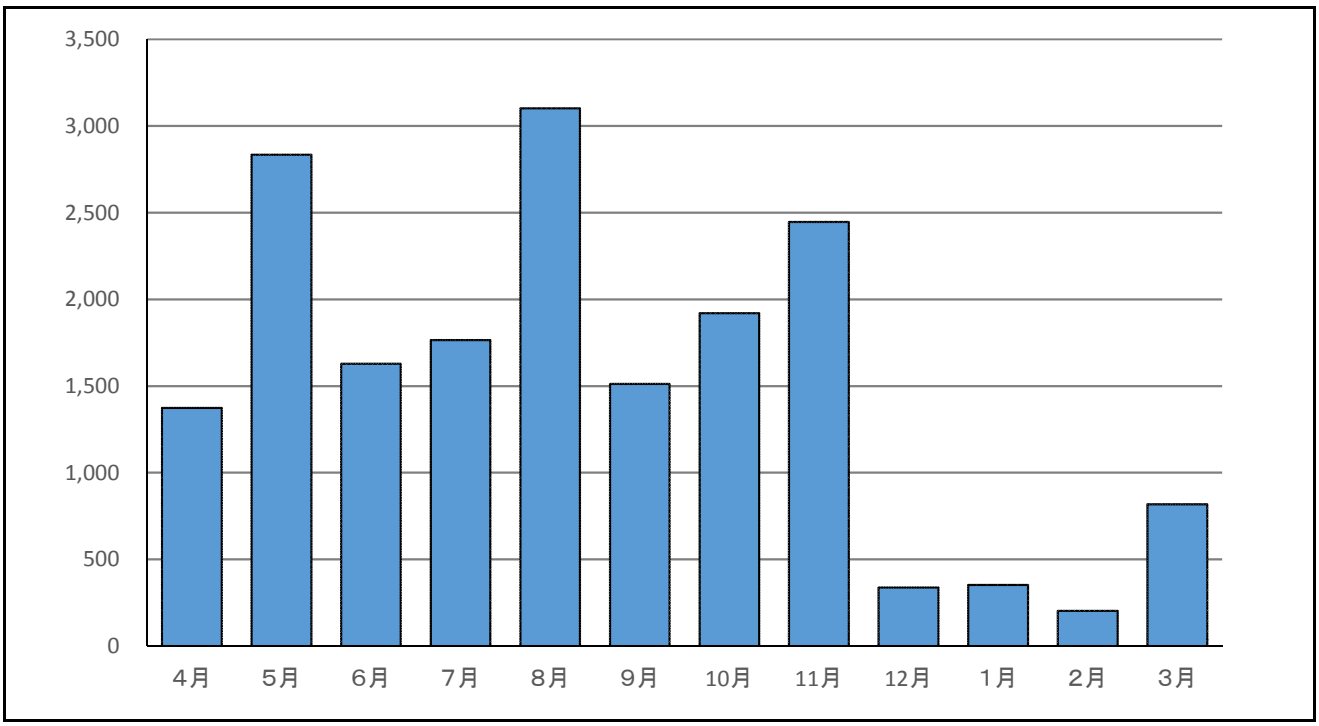
□三瓶自然館利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	6,189	14,500	4,505	15,471	30,905	10,057	10,818	10,438	1,412	4,304	2,646	3,472	114,717



□埋没林公園利用状況

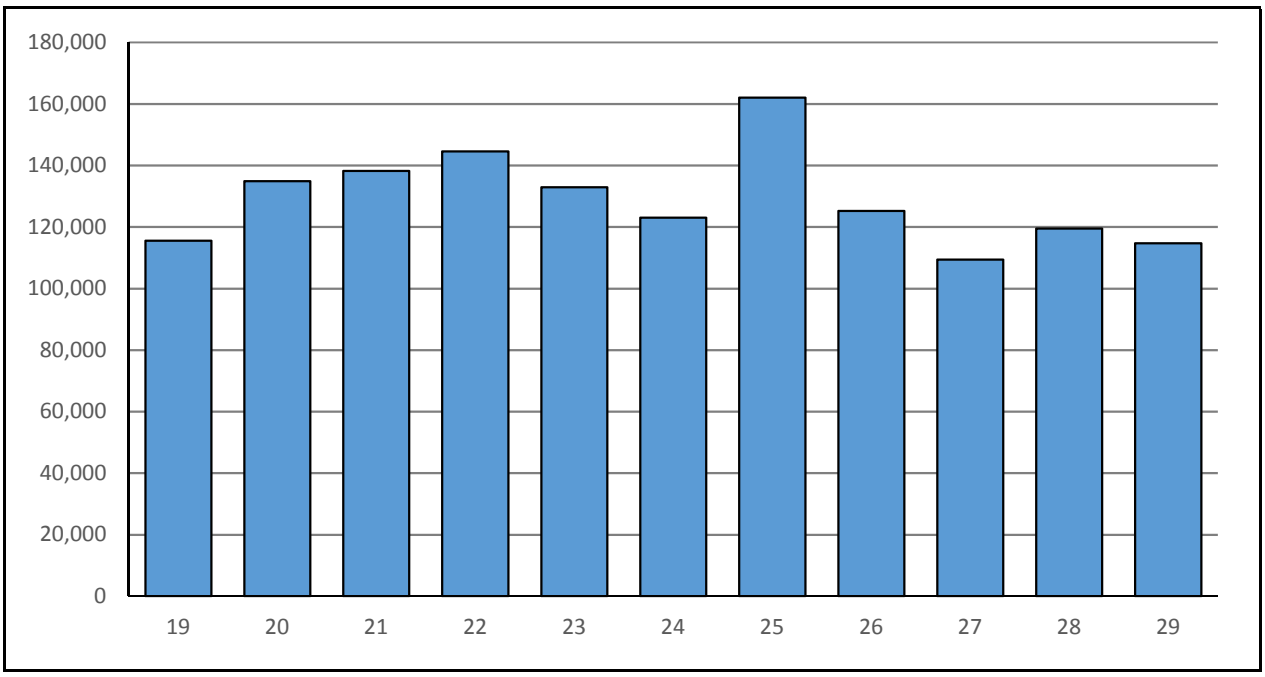
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数(人)	1,373	2,835	1,628	1,766	3,103	1,512	1,920	2,446	337	352	203	817	18,292



２．利用者数の推移

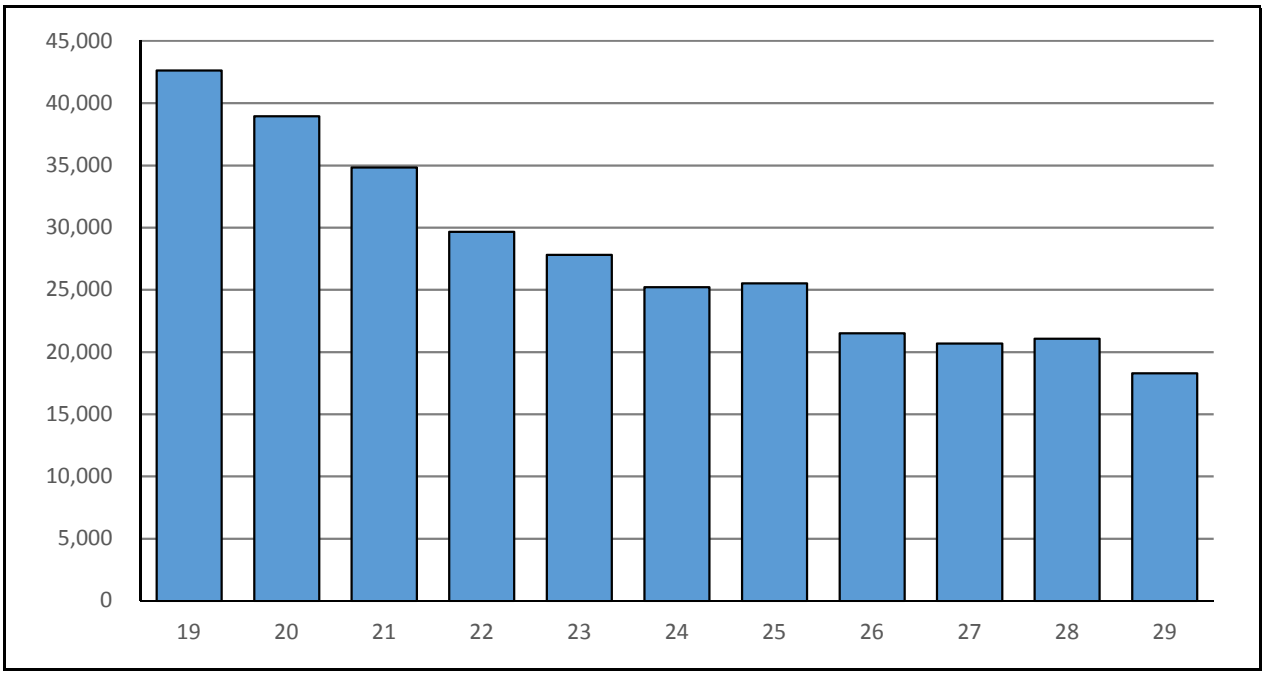
□三瓶自然館

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
総入館者(人)	115,601	134,956	138,231	144,629	132,991	123,093	162,099	125,225	109,478	119,571	114,717



□三瓶小豆原埋没林公園

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
総入館者(人)	42,625	38,948	34,846	29,669	27,807	25,206	25,527	21,505	20,681	21,075	18,292



3．沿　革

昭和63年度　「三瓶フィールドミュージアム構想」が、先導事業開発構想推進会議で「リフレッシュリゾートしまね構想事業」として決定。同じく、自治省の「ふるさとづくり特別対策事業」として決定。

平成元年度　「三瓶フィールドミュージアム整備事業」開始。
三瓶自然館（以下「自然館」）中心とする三瓶フィールドミュージアムの基本・実施設計の作成。

平成２年度　自然館及び附属施設、着工。

平成３年度　財団法人三瓶フィールドミュージアム財団設立（7月1日、以下「財団」）。
自然館完成、全国育樹祭にともない皇太子殿下御来館。
自然館オープン（10月19日）。

平成４年度　財団、新たに「三瓶山北の原キャンプ場（以下「キャンプ場」）」の管理運営を受託。

平成５年度　三瓶フィールドミュージアム整備終了。
三瓶フィールドミュージアムが「三瓶山自然体験ゾーン」として島根県の長期計画（1994～2010年）の戦略プロジェクトに位置づけられる。

平成７年度　島根県、「三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会」を設置。

平成８年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備検討委員会、自然館の機能強化を求める報告書を提出。
キャンプ場、過去最高の年間5万4千人の利用者を記録。

平成９年度　自然館名誉館長として俳優の柳生博氏を起用、委嘱（平成15年度まで）。
常陸宮殿下、妃殿下御来館。

平成10年度　三瓶町多根小豆原で、約3,500年前に埋没したスギ林の存在を確認。調査方法及び保存方法の検討を開始。

平成11年度　島根県、「三瓶埋没林調査保存検討委員会」を設置。あわせて埋没スギの自然館での展示を検討。

平成12年度　三瓶山自然体験ゾーン拡充整備事業、整備着工。
キャンプ場新管理棟（セントラルロッジ）、完成。
三瓶埋没林調査保存検討委員会、埋没林の保存を求める報告書を提出。

平成13年度　島根県知事、小豆原埋没林の保存方針を発表。
自然館拡充工事開始。工事進捗にともない11月末をもって自然館閉館。

平成14年度　自然館拡充工事完了。「三瓶自然館サヒメル」として再オープン（4月18日）。
自然館、通算100万人の来館者を達成。
秋篠宮殿下、妃殿下御来館。
小豆原埋没林現地の公園化整備開始。
自然館、過去最高の年間22万人の来館者を記録。

平成15年度　キャンプ場へ利用料金制導入。
新たに「三瓶小豆原埋没林公園」の管理運営を受託。
「三瓶小豆原埋没林公園（以下「埋没林公園」）」オープン（5月2日）。
自然館、日本博物館協会に加盟。

平成16年度　「三瓶小豆原埋没林」国の天然記念物指定（2月27日）。
新たに「ふれあいの里奥出雲公園（以下「ふれあいの里」）」の管理運営を受託。
埋没林公園来園者10万人達成。

平成17年度　指定管理者制度が導入され、財団が自然館及び附属施設の指定管理者となる（平成17年度～平成21年度）。

平成18年度　7月豪雨によりふれあいの里が被災し、臨時休園となる。
自然館開館15周年（10月19日）。

平成19年度　高円宮妃殿下、自然館及びふれあいの里御来訪（4月30日）。

平成20年度　旧島根ふれあい環境財団21の事業及び財産を継承（4月1日）。
松江事務所開設。環境保全活動への助成、地球温暖化を含む環境問題の啓発等の事業を開始（4月1日）。
埋没林公園入園者30万人達成（4月12日）。
法人名称を「財団法人しまね自然と環境財団」に改称（7月1日）。
高円宮妃殿下御来館（1月22日）。

平成21年度　自然館、通算200万人の来館者を達成（7月12日）。
ふれあいの里、営業終了（12月。3月をもって正式閉鎖）。
自然館、プラネタリウム設備更新のためビジュアルドームの運営を休止（12月～3月）。3月末から新型プラネタリウムの運営開始。
キャンプ場、大田市へ移譲譲渡（3月）。

平成22年度　島根県から2期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける。また、大田市施設となったキャンプ場の指定管理者として、大田市から指名を受ける(いずれも平成22年度～平成26年度)。

平成23年度　財団、公益財団法人へ移行(4月1日)。これに伴い法人名称を「公益財団法人しまね自然と環境財団」に改称。

自然館、開館20周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

財団、自然館運営の検討機関として「三瓶自然館運営委員会」を設置(8月1日)。

平成24年度　神々の国しまねプロジェクトへの協力として、三瓶自然館の小中高校生入館料を無料化(平成26年9月まで)。

″三瓶山″国立公園指定50周年記念事業実行委員会(会長:大田市長)が設置され、財団が事務局を務め、一年を通じて関連イベントを開催。

平成25年度　埋没林公園、開園10周年。記念式典(4月27日)ほか、関連イベントを一年を通じて開催。

特別企画展「さんべ恐竜王国(7月13日～9月29日)」を開催。現在の企画展期間(2ヶ月半)としては過去最高となる99,203人の来館者を達成。

財団研究員が隠岐で巨大ワニの化石を発見。

平成26年度　大田市から北の原キャンプ場指定管理者として指名を受ける(平成27年度～平成31年度)。

島根県から3期目となる自然館及び附属施設の指定管理者指名を受ける(平成27年度～平成34年度)。

平成27年度　自然館、大型ドーム映画設備更新のため、ビジュアルドームの運営を休止(2月～3月)。3月末から新映画設備の運営開始。

平成28年度　自然館、大型ドーム映画リニューアル式典(4月21日)。

自然館、開館25周年。記念式典(7月15日)のほか、関連イベントを一年を通じて開催。

自然館、入館者累計300万人を達成(11月5日)。

平成29年度　第71回全国植樹祭(2020年)が三瓶山北の原で開催されることが決定(11月15日、島根県・(公社)国土緑化推進機構)。

4．資　料

□新聞寄稿状況（p16「Ⅱ．島根県立三瓶自然館 ⑦新聞への寄稿」関係）

掲載日	掲　載　誌	タ　イ　ト　ル	担　当
4/5	山陰中央新報	大小の北斗	竹内幹藏
4/9	讀賣新聞	月に寄り添う木星　見頃	太田哲朗
4/12	島根日日新聞	冬虫夏草	安藤誠也
4/19	山陰中央新報	木星とスピカ	竹内幹藏
4/26	島根日日新聞	年の星	太田哲朗
5/3	山陰中央新報	有明の月	竹内幹藏
5/10	島根日日新聞	収蔵庫を考える	遠藤大介
5/17	山陰中央新報	かみのけ座	竹内幹藏
5/21	讀賣新聞	ペット　最後まで責任を	安藤誠也
5/24	島根日日新聞	雲南市で繁殖していたコウノトリ	星野由美子
5/31	山陰中央新報	月と5円玉	竹内幹藏
6/7	島根日日新聞	山中で水をたたえる地倉沼	井上雅仁
6/11	讀賣新聞	エイ類の「食後」化石	遠藤大介
6/14	山陰中央新報	うしかい座とかんむり座	竹内幹藏
6/21	島根日日新聞	土星を見よう！	矢田猛士
6/28	山陰中央新報	明けの明星	竹内幹藏
7/5	島根日日新聞	クワガタムシの習性	皆木宏明
7/9	讀賣新聞	虫集う　レストラン	井上雅仁
7/12	山陰中央新報	さそり座とてんびん座	竹内幹藏
7/19	島根日日新聞	北の原お散歩ツアー	安藤誠也
7/26	山陰中央新報	この夏の夜空の見どころ	竹内幹藏
8/2	島根日日新聞	早朝の月食	太田哲朗
8/9	山陰中央新報	へびつかい座	竹内幹藏
8/20	讀賣新聞	コウノトリ　試練の1年間	星野由美子
8/23	山陰中央新報	南斗六星	竹内幹藏
8/30	島根日日新聞	図書館講座	遠藤大介
9/6	山陰中央新報	アルタイル近くの小さな星座	竹内幹藏
9/10	讀賣新聞	土星探査機カッシーニの旅	矢田猛士
9/13	島根日日新聞	国引きジオパークとヤマモモ	井上雅仁
9/20	山陰中央新報	カシオペヤ座	竹内幹藏
9/27	島根日日新聞	オーロラ上映会	矢田猛士
10/4	山陰中央新報	満月過ぎの月	竹内幹藏
10/15	讀賣新聞	身近にアシナガアリ在り	皆木宏明
10/18	山陰中央新報	ペガスス座	竹内幹藏
10/25	島根日日新聞	ただいま、恐竜展開催中！	安藤誠也
11/1	山陰中央新報	フォーマルハウトとディフダ	竹内幹藏
11/8	島根日日新聞	冬の到来	太田哲朗
11/12	讀賣新聞	流れ星極大日　18日未明	太田哲朗
11/15	山陰中央新報	銀河を探そう	竹内幹藏
11/22	島根日日新聞	うろこか羽毛か	遠藤大介

11/29	山陰中央新報	美保関いん石	竹 内 幹 藏
12/6	島根日日新聞	鳥の巣箱をかける季節	星野由美子
12/10	讀賣新聞	県内は大根島が同時代	遠 藤 大 介
12/13	山陰中央新報	流星の正体	竹 内 幹 藏
12/20	島根日日新聞	イヌの名をもつ植物たち	井 上 雅 仁
12/27	山陰中央新報	昼間の月	竹 内 幹 藏
1/10	島根日日新聞	おおいぬ座とこいぬ座	矢 田 猛 士
1/10	山陰中央新報	犬にまつわる星	竹 内 幹 藏
1/14	讀賣新聞	動物の足跡　スキーで追跡	安 藤 誠 也
1/24	島根日日新聞	穴を開けた犯人は？	皆 木 宏 明
1/24	山陰中央新報	皆既月食を見よう	竹 内 幹 藏
2/7	島根日日新聞	幻のモグラ	安 藤 誠 也
2/7	山陰中央新報	冬の大三角	竹 内 幹 藏
2/11	讀賣新聞	木は凍らないの？	井 上 雅 仁
2/21	島根日日新聞	火山のチカラ	太 田 哲 朗
2/21	山陰中央新報	夜明け前の火星	竹 内 幹 藏
3/7	島根日日新聞	火と水のダイナミズム	遠 藤 大 介
3/7	山陰中央新報	金星と水星	竹 内 幹 藏
3/11	讀賣新聞	自然への鋭いまなざし	皆 木 宏 明
3/21	島根日日新聞	恋の歌	星野由美子
3/21	山陰中央新報	おぼろ月	竹 内 幹 藏

□予約天体観察会実施状況（p18「Ⅱ.島根県立三瓶自然館 ⑨天体観察会 b 予約天体観察会」関係）

月	日	団体名	人数
4	12	三次市立塩町中学校	70
	13	三次市立吉舎中学校	26
	27	三次市立君田中学校	15
	28	広島製菓専門学校	86
5	17	北広島町立豊平中学校	15
	18	広島県立千代田高等学校	67
	19	広島市立牛田中学校	211
	24	広島市立城南中学校	235
	25	出雲市立長浜小学校	57
	31	広島市立高陽中学校	107
6	14	府中市立南小学校	24
	15	大田市立大田西中学校	53
	22	大田市4校連合体験活動	60
7	6	島根県立浜田養護学校	28
	7	邑智小学校3年生PTA	70
	12	広島大学附属三原中学校	82
	16	個人グループ	21
	19	広島市立古市小学校	80
	19	広島市立安北小学校	121
	20	三次市立三次小学校	56
	23	広島市立似島小学校	22
	23	広島市立長束西小学校	59
	23	波多交流センター	48
	24	出雲市立神門幼稚園	15
	24	大原地区子供会	28
	26	山村留学センター	32
	27	広島市立東野小学校	132
	28	広島市立五日市南小学校	162
	30	庄原市立峰田小学校	24
	30	個人グループ	7
	30	広島市立幟町小学校	96
8	2	広島市立伴小学校	211
	3	都賀行交流センター	20
	3	広島女学院中高等学校生物部	30
	3	浜田児童相談所	11
	4	安芸高田市立向原小学校	31
	4	安芸高田市八千代連合小学校	30
	4	教員免許状講習	18
	4	斐川西中学校科学部	17
	9	山村留学センター	31
	9	個人グループ	8
8	9	安芸高田市甲田連合小学校	31
	9	邑智郡教育研究会理科部会	12
	16	広島国泰寺高等学校理数コース	84
	17	やまもとピアノ教室	31
	23	広島市立久地南小学校	35
	23	庄原市立比和小学校	12
	23	広島市立古田台小学校	37
	25	広島市立宇品小学校	202
	27	安田女子高等学校写真部	12
	30	広島市立千田小学校	133
	30	広島市立己斐小学校	113
9	6	安芸高田市立吉田小学校	77
	7	広島市立本川小学校	79
	13	島根県立大田高等学校理数科	40
	21	スマイルキャンプ	40
10	4	雲南市立木次小学校	43
	4	庄原市立庄原小学校	51
	11	大田市立大森・高山小学校	21
	11	広島市立彩が丘小学校	51
	12	庄原市立山内小学校	13
	20	邑智小学校6年生保護者会	77
11	3	青少年交流の家主催事業	35
	16	石見智翠館高等学校	22
12	22	開星中学校高等学校科学部	16
1	18	あおぞら保育園	19
合計		66	3,802

□予約自然観察会実施状況(p19「Ⅱ.島根県立三瓶自然館 ⑩自然観察会 b 予約自然観察会」関係)

月	日	団　　体　　名	人数
4	19	大田市立北三瓶小学校	7
5	1	大田市立池田、北三瓶、志学小学校	24
	2	雲南市立斐伊小学校	22
	2	江津市立津宮小学校	42
	19	大田幼稚園	72
	21	伊波野コミュニティセンター	32
	31	神石高原町立来見小学校	20
7	13	広島大学附属三原中学校	80
	20	安田学園安田小学校	3
	22	呉市広子ども会連合会	44
	31	庄原市立峰田小学校	24
8	1	稗原コミュニティセンター	12
	3	庄原市立総領小学校	12
	3	広島女学院中学･高等学校生物部	30
	8	こうだ連合(安芸高田市立3校合同)	33
	17	広島県立国泰寺高校(自然観察)	84
	17	広島県立国泰寺高校(地層学習)	20
	30	大田市立北三瓶小学校	6
9	7	大田市立川合小学校	28
	8	雲南市立鍋山小学校	18
	13	大田市立鳥井小学校	8
	20	出雲市立須佐小学校	8
	21	大田市立久屋小学校	18
	21	出雲市立佐田中学校	25
	22	大田市立長久小学校	20
10	4	川本町立川本小学校	27
	4	大田市立長久学校	20
	5	出雲市立大社小学校	46
	6	飯南町立赤名小学校	33
	6	江津市立桜江小学校	43
	6	大田市立北三瓶小学校	4
	20	江津市立川波小学校	16
	20	江津市立川波小学校	17
	20	サンチャイルド長久さわらび園	25
	26	飯南町立頓原小学校	8
	27	浅利こども園	27
	27	大田市立北三瓶小学校	5
11	5	今市コミュニティセンター	55
	10	雲南市立掛合小学校	28
	20	大田市立久屋小学校	17
1	24	なぎさ公園小学校	82
合計		41件	1,145

□テーマ解説実施状況（p19「Ⅱ．島根県立三瓶自然館 ⑪環境教育 環境学習事業 館内案内・テーマ解説」関係）

月	日	団　　体　　名	人　数
5	20	島根大学生物資源学部農林生態科学教育コース	24
7	18	大田市立北三瓶小学校	19
8	7	安芸高田市理科部会	9
8	17	広島市立国泰寺高校（放射線学習）	20
8	21	須佐児童クラブ・窪田児童クラブ	67
8	22	広島大学総合科学部	18
9	10	春殖（はるえ）地区振興協議会女性部	15
11	9	美郷町立大和小学校3年生	9
11	12	「さんべ絵本フェスタ」参加者	39
11	13	島根県立大田高校2年生	40
11	15	島根県立大田高校2年生	43
11	24	島根県立大田高校2年生	4
12	18	飯南町立志々小学校3・4年生	12
12	23	開星中学校高等学校　自然科学部	16
1	18	大田市立高山小学校・大森小学校3・4年生	19
2	7	美郷町立大和中学校3年生	15
合　計		16団体	369

□講師派遣実施状況(p19「Ⅱ.島根県立三瓶自然館 ⑪環境教育・環境学習事業 講師派遣」関係)

月	日	団体名	場所	内容	講師	人数
4	2	吉賀町教育委員会	吉賀町鹿足河内	アンモナイト化石の発掘調査	遠藤	7
	9	大代高山会	大江高山	自然観察登山での解説	井上	20
	16	島根県立しまね海洋館	島根県立しまね海洋館	昆虫観察の指導	皆木	14
	18	キリスト教愛真高等学校	キリスト教愛真高等学校	植物の観察、採集、試食	安藤 松原	22
	26	雲南市教育委員会	雲南市春殖交流センター	コウノトリ地元説明会の対応	星野	25
5	2	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	小学校周辺の野鳥についての講義	星野	165
	7	波多コミュニティ協議会	さえずりの森	春の野草観察とタケノコ狩りでの解説	松原	24
	11	大田市立北三瓶中学校	三瓶山姫逃池	かきつばた愛護活動での講話	井上	20
	12 14	日本自然保護協会	国立山口徳地青少年自然の家	NACS-J 自然観察指導員講習会の講師	星野	40
	20	高海自治会化石研究会	高海自治会館と発掘体験現場	講演「高海の地質と化石について」と現地指導	遠藤	14
	27	大田市立温泉津公民館	温泉津町松山地区～清水地区	教育推進事業「大きな石はどこからきたの？」での解説	遠藤	18
	28	津和野千倉沼を守る会	地倉沼	チョウジソウ観察会での解説	井上	50
	31	川合まちづくりセンター	川合まちづくりセンター	危険生物についての講話	安藤	30
	31	日本博物館協会中国支部	あすてらす	講演会「国立公園三瓶山と三瓶自然館」	中村	50
6	9	口羽公民館	ほたるの館	講演「ゲンジホタルの生態について」	皆木	23
	15	北三瓶町づくりセンター	北三瓶町づくりセンター	天体観察の指導	竹内	25
	16	美郷町都賀行交流センター	美郷町都賀行交流センター	わんぱく教室「都賀行の星空観察会」での解説	竹内 太田	35
	17	島根わくわくサイエンスクラブ	尺の森公園	わくわくサイエンス「森の不思議」での解説	葭矢	15
	17	国立三瓶青少年交流の家	島根県立三瓶自然館	自然体験活動指導者養成講座の講師	井上	12
	23	大田市立池田小学校	三瓶町池田の水田	田んぼの生きもの観察の講師	皆木	10
	24	島根わくわくサイエンスクラブ	松江城椿谷公園	わくわくサイエンス「森の不思議」での解説	井上	70
	26	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	接遇研修の講師	大草	20
7	15	高海自治会化石研究会	邑南町郷土館	化石パンフレット作成の学習会	遠藤	5
	27	日御碕コミュニティセンター	日御碕コミュニティセンター	子どもパークレンジャーでの植物観察	井上	14
	27	津和野町立日原図書館	日原小学校・津和野小学校	絵本「せいめいのれきし」と化石・恐竜についての講話	遠藤	28
8	6	大田市教育委員会	大田市中央図書館	昆虫に関する解説	皆木	40
	6	心光院ｻﾏｰｽｸｰﾙ実行委員会	心光院	ホネのプログラムの実演	安藤	35
	6	国立三瓶青少年交流の家	島根県立三瓶自然館	教員免許状更新講習での自然体験の講師	井上	20
	7	大田市立朝波小学校	朝波小学校校区	理科学習のためのフィールドワーク	遠藤	13
	9	島根大学生物資源科学部	島根大学三瓶演習林庁舎	演習林内で採取された昆虫類の同定指導	皆木	16
9	22	飯田寿会	大東町駅前公民館	コウノトリに関する講話	星野	40
	24	日本自然保護協会	鳥取なぎさ館	モニタリングサイト1000シンポジウムの演者	星野	23
	29	浜遊自然館	浜遊自然館	天体観察の指導	竹内	20
	29	大田市立志学小学校	国立三瓶青少年交流の家	ユウスゲの学習	井上	7

9	30	仁万･天河内文化協会	仁万まちづくりセンター他	琴ヶ浜のなり砂と福光石についての講演会･観察会	中村	25
	30	国立三瓶青少年交流の家	三瓶山北の原	昆虫観察の指導	皆木	16
10	10	大田市立北三瓶小学校	三瓶山西の原	希少植物についての学習	井上	65
	11	大田市立朝波小学校	大田市立朝波小学校	波根海岸の立神岩のでき方についての講話	遠藤	35
	12	久手まちづくりセンター	久手まちづくりセンター	野鳥についての講演	星野	20
11	11	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	恐竜と化石についての講話	遠藤	135
	11	有福温泉町湯町自治会	有福温泉町湯町自治会	里山とササユリについての講話	井上	16
	18	隠岐しぜんむら	隠岐支庁	隠岐の植物についての講話	井上	25
	18	高海自治会化石研究会	邑南町高原自治会館	高見の地質と貝化石についての講話	遠藤	15
	22	雲南市立西小学校	雲南市立西小学校	コウノトリについての講話	星野	25
	30	春殖地区振興協議会	山王公民館	コウノトリについての講話	星野	20
12	2	日本野鳥の会鳥取県支部	宍道ふるさと森林公園	コウノトリについての講話	星野	10
	7	大田市立第三中学校	大田市立第三中学校	三瓶自然館の仕事についての講話	皆木	15
	9	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	松ぼっくりについての講話	井上	60
	11	飯南町	飯南町保健福祉センター	ハチなどの生態についての講話	皆木	30
	14	大東下分寿会･養賀寿会	春殖交流センター	コウノトリについての講話	星野	45
	15	島根大学	島根大学	ミュージアム講座の演者	中村	200
	16	国立三瓶青少年交流の家	国立三瓶青少年交流の家	松ぼっくりについての講話	井上	40
	21	島根県	あすてらす	島根県統計大会における講演	井上	200
1	25	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	火山灰の観察と解説	遠藤	6
2	16	島根県立邇摩高等学校	島根県立邇摩高等学校	大田市の地質についての講話	遠藤	99
	21	大田市立北三瓶中学校	大田市立北三瓶中学校	放射線学習	矢田	7
	25	池田地区まちづくり推進協議会	池田まちづくりセンター	浮布の池の水質浄化に向けての勉強会の講師	中村	34
3	3	長久まちづくりセンター	大田市鳥井町 東池	野鳥観察の講師	星野	15
	21	川本町自然大好きネットワーク	川本町谷戸	イズモコバイモ観察会での講話	井上	30
	23	川本町自然大好きネットワーク	川本町谷戸	イズモコバイモ観察会での講話	井上	40
	24 25	日本自然保護協会	東京都 成美教育文化館	NACS-J 自然観察指導員講習会の講師	星野	20
合　計				61件		2,218

５．評議員会・理事会等

（１）評議員会

①第11回評議員会（平成29年度定時評議員会）

・開 催 日：平成29年6月19日
・開催場所：仁万屋会議室
・出 席 数：評議員6名（第3号議案決議後。開会時5名）、監事1名
・議　　題：報告事項　事業概況について
第1号議案　平成28年度事業報告及び決算報告の件
第2号議案　任期満了に伴う理事及び監事の選任の件
第3号議案　辞任に伴う評議員選任の件
第4号議案　任期満了に伴う評議員会議長選定の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認。なお、3号議案は1号議案の前に繰り上げて審議した。

（２）理 事 会

①第17回理事会（平成29年度第1回定時理事会）

・開 催 日：平成29年5月24日
・開催場所：島根県立男女共同参画センター（あすてらす）研修室
・出 席 数：理事4名、監事1名
・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案　平成28年度事業報告及び決算報告の件
第2号議案　第11回評議員会（定時評議員会）の招集に関する件
第3号議案　辞任に伴う三瓶自然館運営委員選任の件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

②第18回理事会（臨時理事会）

・開 催 日：平成29年6月19日
・開催場所：仁万屋会議室
・議 決 数：理事5名、監事2名
・議　　題：第1号議案　役員改選に伴う理事長及び常務理事選定の件
・結　　果：原案どおり承認

③第19回理事会（平成29年度第2回定時理事会）

・開 催 日：平成30年3月19日
・開催場所：仁万屋会議室
・出 席 数：理事5名、監事2名

・議　　題：報告事項　理事長及び常務理事の職務執行状況
第1号議案　平成29年度予算補正の件
第2号議案　平成30年度事業計画及び予算の件
第3号議案　規程改正に関する件
第4号議案　重要な職員の任免に関する件
・結　　果：全号とも原案どおり承認

（３）三瓶自然館運営委員会

本委員会は、島根県立三瓶自然館及びその附属施設を運営するにあたり、島根県の自然系博物館としてのあり方や、広く県民に親しまれ利用される方策について協議するための、外部委員による会である。

①第７回運営委員会

・開 催 日：平成29年10月16日
・開催場所：島根県立三瓶自然館
・出 席 数：運営委員及び財団事務局、島根県自然環境課　計26名
・概　　要：三瓶自然館の運営状況と課題について意見交換を行った。主な内容は、国立公園満喫プロジェクトや第71回全国植樹祭、三瓶フィールドミュージアム長寿命化工事についての概要説明、三瓶自然館の常設展示更新及び三瓶自然館とその附属施設の利用促進についての意見交換など。

6．関連記事

三瓶の自然学びに来て

新小1生に年間無料パス

サヒメル

県立三瓶自然館サヒメル（大田市三瓶町多根）は10日、大田市内の市立小学校16校に今春入学した新一年生ら70人に、同館の年間無料パスポートを贈呈した。児童たちに入館を促し、地域の自然環境への関心を高めてもらう。

同館の猶井浩館長らが同市大田町の市役所を訪れ、パスポートを贈呈したA3サイズの記念パネルを竹下誠一市長と市教育委員会の大国晴雄教育長に寄贈した。パスポートは同日、各校に贈られ、児童の手元に届く。利用期限は来年3月末としている。

猶井館長は「パスポートが、三瓶の自然について興味を持ってもらうきっかけになればいい。年間を通じて来館してほしい」と期待し、竹下市長は「地元の子どもたちが地域への関心を高めてくれることは望ましい」と歓迎した。

パスポートの贈呈は、昨年7月の開館20周年記念式典に合わせて実施して以来、2度目。（錦織拓郎）

竹下誠一市長（右）にパスポートを贈ったパネルを手渡す猶井浩館長

山陰中央新報　H29.4.13(木)

鉱山としての特徴をパネルで

大田サヒメルで石見銀山展

やまやTrio、14日に

出雲 味噌亭でジャズナイト

島根日日新聞　H29.5.11(木)

誤射のその後

豊かな自然は宝物

選ばれる価値実感

三瓶自然館の島根担当　星野由美子さん

毎日新聞　H29.7.9(日)

JR駅発着点に町歩き

市民ら　琴ケ浜や鞆ケ浦満喫

大田再発見「エキ・カラ」

山陰中央新報　H29.7.19(水)

ヒアリの標本を県内初展示

サヒメル「SHIN昆虫展」で

正しい知識を

県立三瓶自然館サヒメル（大田市三瓶町）で8日から、いま国内をにぎわせている特定外来生物「ヒアリ」の標本が展示されている。同種の標本展示は国内で初めて。担当者は、ヒアリを教育の場とすることで、正しい知識を持ってもらいたいとしている。

展示されているのは、アメリカで採集されたヒアリ3個体の乾燥標本。ヒアリは2・5ミリからと小さいため、働きアリのルーペを使って拡大して見ることができる。11日、さらに、さらに、個体の乾燥標本も展示される。

ヒアリは、強い毒と針を持つ、南アメリカ原産のアリ。現在は、アメリカ中国、オーストラリアなど生息域を拡大している。今年5月に日本で初めて神戸市で発見された。全国的に認知度が高まっている。

問い合わせがあったことから、実際に見てもらう機会を作ろうと、九州大学から標本を譲り受け、展示することにした。展示を始めた8日から、多くの人が足を止めていた。広島市の小学4年生、長尾凛君（9）は、「ヒアリのことはニュースで聞いて知っていた。思ったより小さかった」などと話しながら、熱心に標本を見ていた。

昆虫類学の椿木佳明学芸員（42）は、「むやみに怖がる必要はなく、正しい知識を持つことが大切」と話し、多くの人に見てほしいと呼び掛けている。

ヒアリの標本を展示するコーナー。中央下のルーペを設置した場所にヒアリの標本がある＝県立三瓶自然館サヒメル

島根日日新聞　H29.8.10(木)

写真で巡る世界遺産

大田市内 3館で350点展示

8日から

大田市の石見銀山遺跡の「世界遺産登録10周年に合わせて、同市内の展示館設3館を舞台とした記念事業「世界遺産写真展～写真で巡る世界遺産の旅～」が8日、開催する。世界遺産研究家で、日本イコモス国内委員会委員の久保美智代氏が撮影した世界中の遺産写真350点を一挙に公開する。

会場となるのは、石見銀山世界遺産センター（大森町）、仁摩サンドミュージアム（仁摩町天河内）、島根県立三瓶自然館サヒメル（三瓶町）。サヒメルのみ10月1日開幕となる。3館が連携して同一のイベントを開くのは初めてという。これまでに50カ国以上、約400カ所もの世界遺産を訪れた久保氏が撮りためた写真を「自然」「建物」など、テーマごとに分類して展示する。開催期間はいずれも12月24日まで。

「世界遺産写真展～写真で巡る世界遺産の旅～」のチラシ

山陰中央新報　H29.9.9(土)

世界に一つの昆虫ができた

プラスチックスプーンで標本づくり

大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルは、プラスチックスプーンを使ってオリジナルの昆虫標本を作ろうと、「プラスチックスプーンの昆虫標本づくり」を開催した。9月13日まで。

プラスチックスプーンの形を生かして昆虫標本を作る子どもたち＝16日、大田市三瓶町のサヒメル

島根日日新聞　H29.8.18(金)

「とある未来の給食」試食

食料危機救う昆虫食 好評

三瓶自然館サヒメル

(3) 平成29年(2017年) 9月13日(水曜日)

山陰中央新報　H29.9.13(水)

入場5万人目の祝福を受ける田中徳宏さん（左から3人目）と家族

昆虫展入場者5万人達成

サヒメル 江津の家族に記念品

子どもに人気のカブトムシ、クワガタムシを中心に昆虫の生体や標本を展示する県立三瓶自然館サヒメル（大田市三瓶町）の企画展「SHIN昆虫展」（山陰中央新報社など主催）の入場者が18日、5万人に達し、節目の来場者となった江津市江津町の公務員、田中徳宏さん（40）の家族に記念品が贈られた。

田中さんは妻、長男、次男と来館。昆虫好きな6歳の長男のために訪れたという。

SHIN昆虫展は7月15日に開幕。体長約18センチのヘラクレスオオカブトムシの中では世界最大のヘラクレスオオカブトや、南米原産で強い毒を持つヒアリの標本など約600点を展示している。

会期は今月24日まで。入館料は大人700円、小中高生200円。19日は休館日となる。

（新藤浩司）

山陰中央新報　H29.9.17(日)

秋の褒章

県内からは4人

山の魅力を伝え続ける

自然公園指導員

岩谷由美子さん

島根日日新聞　H29.11.2(木)

ご当地雑煮や昔遊び楽しむ

大田 サヒメルで正月イベント

ご当地雑煮を食べ比べ＝大田市三瓶町のサヒメル

島根日日新聞　H30.1.4(木)

恐竜をテーマにした企画展「かはくから恐竜がやってきた！」（中国新聞社など主催）が、大田市三瓶町の県立三瓶自然館サヒメルで開かれている。28日まで。

国立科学博物館（東京都台東区）の巡回展。同館所蔵の恐竜の全身骨格の標本、卵の化石など計約40点を展示する。サヒメルの入り口では、国内で最初に見つかった「ニッポノサウルス」（全長約6メートル、高さ約2メートル）の全身骨格が出迎える。

展示室には、モンゴルのゴビ砂漠で発掘されたアジア最大の肉食恐竜「タルボサウルス」（全長約10メートル、高さ約2メートル）の骨格標本を中央に配置。恐竜から鳥類への進化の過程のほか、最新の研究で明らかになった子育てなどの様子も紹介している。

家族5人で訪れた大田市鳥井町、鳥井小2年の木村悠翔君(8)は「最初は怖かったが、見ると好きになってきた。大きな恐竜が本当に生きていたんだね」と見入っていた。

大人700円、小中高生200円。火曜休館。同館☎0854(86)0500。（城戸昭夫）

ど迫力 恐竜ワールド

三瓶のサヒメル 骨格標本や卵の化石40点

巨大な恐竜の全身骨格標本を読める来場者

中国新聞　H29.11.15(水)

生き物や大自然写真100点を紹介

サヒメルで巡回展

作品を紹介する学芸員

山陰中央新報　H30.1.6(土)

断熱リフォームのススメ

工事費の3分の1補助

断熱リフォームセミナー

地球環境問題と今後の住まい

省エネリフォーム減税制度について

TEL:0852 26 4577

山陰中央新報　H30.2.27(火)

公益財団法人しまね自然と環境財団
Shimane Nature and Environment Foundation